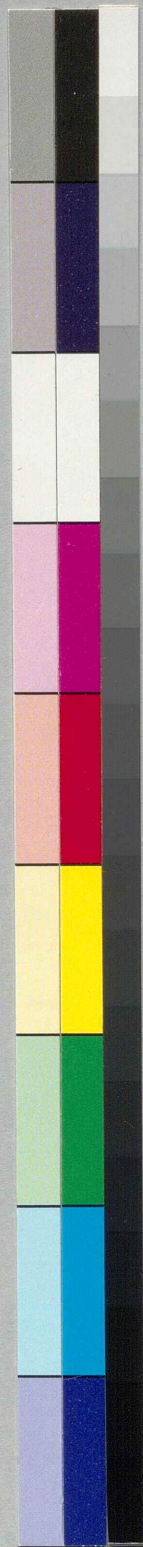
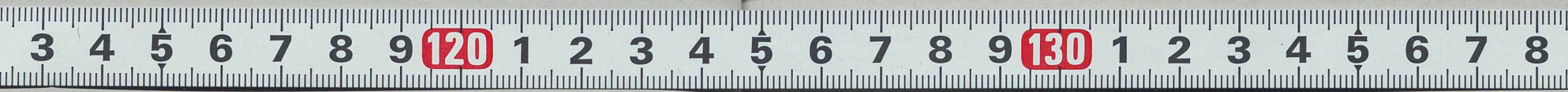


「学生便覧別冊」

昭和58年度開講科目



お茶の水女子大学



昭和58年度 行事予定表

月 日 (曜)	事 項
4月9日(土)	入学式
4月14日(木)	前学期授業開始
6月1日(水)～3日(金)	定期健康診断
7月11日(月)～13日(水)	新入生セミナー
7月11日(月)～16日(土)	補講日
7月17日(日)～9月8日(木)	夏期休業
9月24日(土)～9月30日(金)	前学期末試験
10月1日(土)～10月7日(金)	秋期休業
10月8日(土)	後学期授業開始
10月26日(水)	体育祭
11月5日(土) 6日(日)	文化祭
11月29日(火)	創立記念日
12月25日(日)～1月9日(月)	冬期休業
1月13日(金) 14日(土)	共通第1次学力試験 の為臨時休業
2月14日(火)～20日(月)	後学期末試験
3月23日(金)	卒業・修了式

表一 員委教師・主任科掌 頁半82第部

目 次	頁
一般教育科目	1
外国語科目	9
保健体育科目	20
留学生特別科目	21
教職専門科目	22
文教育学部(人文科学研究科)	27
理 学 部(理学研究科)	83
家 庭 学 部(家政学研究科)	109
専任教官名簿	141
附 表	
補導委員・学科主任一覧	
行事予定表	

昭和58年度 学科主任・補導委員一覧

学 科	補 導 委 員				学科主任
	1 年	2 年	3 年	4 年	
哲 学	高江島原	宮島屋	高木	尾田本	熊谷
史 学	五味	岸本	平野	青木	青木
地 理	三上	栗原	内藤	浅海式	井内
国 文	白藤	犬養	三木	市川	浅井
中 文	中山	中山	中山	中山	近藤
英 文	宮川	海老根	酒本	野島	酒本
仏 文	中村	中川	中村	石川	石川
教育学	中内	鷹野	宮原	藤永	小川
心理学	須賀				春日
舞踊教育学	片岡	興水	森加下賀	石黒	森下
音楽教育学	大宮	林	徳丸	遠藤	徳丸
数 学	高村	松田	小川	沢島	沢島
物 理	福田	富永	池田	田中	石黒
化 学	細矢	中西	瀬野	曾根	曾根
生 物	渡辺	山下	能村	石和	新関
児 童	本田	浅見	田口	大森塚田	大塚
食 物	相田	本間	島田	倉田	小林
被 服	小池	長谷部	松川	石川	中島
家 経	袖井	小倉	原	犬塚	伊藤

一般教育科目
 外国語科目
 保健体育科目
 留学生特別科目
 教職専門科目

(一般教育科目) 人 文

科 目	教 官	学 年	内 容
哲 学	高 木	I	哲学についての基礎的問題についてとりあげる。教科書：「西洋哲学史」有斐閣参考書「哲学へのいざない」(大明堂)
倫 理 学	尾 田	I・II 前	現代生活における倫理の問題を、科学、経済、政治、芸術、教育、宗教の諸側面から取りあげる。教科書：「倫理学」(学陽書房)
論 理 学	吉 田	I・II 後	集合の概念が理論の構造において演ずる役割の解説から始めて論理学の基本概念、論証の基本的な形式について解説する。論理が今においてどういう意義を持っているかについてを論じたい。
心 理 学	梶 山	I・II	心理学の歴史から始め、知覚・学習・記憶・動機づけ・思考等の基礎的な分野の解説をする。心理学は行動と精神過程の科学であり、現代では各方面に应用されている。一般科目として興味が持てるよう具体例も多くとりあげる予定。
宗 教 学	高 木	I・II	現代社会における宗教の機能・役割りについて、人間・社会の立場から検討する。教科書：「宗教学」(大明堂)
文 学	I 浅井 堤	I	「文学とは何か」ということを、国文学の立場から考える。前期に近代文学を、後期に古典文学を対象として扱う。
文 学	II 野 島	I・II	日本文学の古典の代表的な作品を取り上げて、古典の読み方、および日本人の心のありかを尋ねる。
国 語	白 藤	I	日本語の特色を、音韻・文字・語彙・文法などについて考える。
芸 術 学	赤 沢	I・II	(日本絵画史)日本美術史のうち、特に古代、中世の絵画史について概説する。

科 目	教 官	学 年	内 容
音 楽	大 宮	I 前	オーケストラの歴史1) ルネサンス時代の器楽。バロック時代のオーケストラ。18世紀のオーケストラ。楽器のイコノグラフィ。スライド使用。
音 楽	徳 丸	I 後	日本とアジアの音楽の理解の仕方と問題点を、フィルム、ビデオ、テープ録音で具体的に接する。後から見なおすことができないので、欠席しないように気をつけること。

社 会

科 目	教 官	学 年	内 容
法 学	川 添	I・II (文教育・理)	日本国憲法に関する重要判例を批判的に検討しながら、憲法運用の実態を概説する。教科書：奥平・川添・丸山編「テキストブック憲法」(有斐閣)
法 学	森 田	I (家政)	日本国憲法 1)憲法判例を手がかりにした日本国憲法の概観を行う。 2)近代憲法思想史・憲法史の素描を試みる。(教科書、奥平康弘『憲法』弘文堂『憲法判例集』有斐閣、小六法を持参のこと)
法 学	湯 沢	I・II 前	家族を律する民法第4・5編の成立、親族・婚姻・離婚・親子・扶養に関する法的構成と裁判例の具体的説明。(小型)六法全書が必要。
法 学	堀 内	I・II 後	刑法について講義する。我々の暮しと刑法がどのように関わり合っているかを中心に述べてみたい。小六法を持参のこと。
政 治 学			本年度開講せず。
経 済 学	桜 井	I・II	一般教養として経済学および現代の経済問題について概説する。教科書はとくに定めませんが、参考書・資料等については適宜指示する。
社 会 学	宮 島	I・II	現代日本社会編。経済高度成長をへて、日本社会がどのように変わったか社会構造、文化、社会心理などの側面から明らかにする。欧米社会との比較もおこなう予定。
歴 史 学	青 木	I・II 前	日本古代における「個性」の誕生。即ち日本人は何時頃から、集団的な思惟や感覚に流されずに、個性的な自己を自覚するようになったか。

科 目	教 官	学 年	内 容
歴史学	佐伯	I・II 後	アジア的農業社会の問題は、伝統社会とその変革にとって、最も基本的なものである。従来の研究史を検討しつつ、分析の方法について新しい見方あるいは従来より顧みられなかった課題を提示する。
文化人類学	大林	I・II 前	文化人類学の歴史、主な生活形態、文化の主な構成部門、文化についての理論的諸問題を概論する。参考書、綾部恒雄、大林太良、米山俊直編『文化人類学入門リーディングス』アカデミア出版会
地理学	朝倉	I 前	地理的位置、分布、環境、地域など地理学における基本概念を具体的事例によって考察する。参考書：O.ドルフェス「地理空間」(白水社文庫 ケセジ)
地理学	井内	I 後	居住空間をめぐる進行している都市化の現状と問題を内外の事例にて紹介し、考察する。
家政学	犬塚 他	I・II 後	「家政学」の現状と将来を展望する。
国際関係論	山本	I・II 後	一般教養として、国際関係についての基本的視座ならびにケース・スタディを概説する。教科書は特になし。
婦人問題	原	I・II 前	本年度は「女性と教育」というテーマで行う。テキストは授業時間に紹介する。
生活文化論	原 他	I・II 後	生活文化に根ざした諸問題を、いろいろな角度からとりあげ、複数教官による講義、討論を行う。本年度のテーマは「よそおう」。

自 然 (文)：文科系学生対象
(理)：理科系学生対象

科 目	教 官	学 年	内 容
数学(文) I	伊 関	I・II 前	ゲーム理論入門。簡単な長方ゲームを実際に解くことを目標とする。予備知識としては、高校の数学I・数学II B程度で十分である。
数学(文) II	本 田	I・II 後	トピックス風の数学史。ユークリッド、デカルト、ガロア、ヒルベルトなど何人かの代表的数学者の業績の中に、数学とは何かということ及び数学と人間文化全体のかかわりを探求する。
物理学(文)	福田博	I・II	力学及び電磁気学の概説。又原子物理の考え方にもふれる。参考書：原島鮮「物理教育覚え書き」(裳華房)
化学(文) I	前 田	I・II 前	一般教養としての化学の基礎及びその発展の歴史、化学と生活のかかわりあいなど。教科書：林太郎著「創造の化学」(裳華房)
化学(文) II	中 西	I・II 後	化学の立場から見た物質界の諸側面
生物学(文) I	荒 木	I 前	生物学の進歩を身近な現象について考える。
生物学(文) II	太 田	I 後	生物学的に見た人間の特徴を、行動と遺伝を中心に概説する。
数学(理) I	関 本	I 前 理	一変数関数の微積分学を述べる。教科書：笠原皓司「微積分学」(サイエンス社)及びポントリャーギン著、坂本実訳「やさしい微積分」(東京図書)
数学(理) I	西 沢	I 前 家政	一変数の微分・積分 教科書：一松信「微分・積分学入門」サイエンス・ライブラリー・数学=6 (サイエンス社)

科 目	教 官	学 年	内 容
数 学 (理) II	高 橋	I 前 理	行列, 連立一次方程式の解法, 線形写像など。初等線形代数学 (理, 共通) に続く。 教科書: 村上ほか著「教養の線形代数」(培風館)
数 学 (理) II	松 田	I 前 家政	行列, 連立一次方程式の解法, 線形写像など, 線形代数学入門。 教科書: 村上正康, 佐藤恒雄, 野沢宗平「教養の線形代数」
物 理 学 (理) I	福田(博)	I・II 前	力学, 弾性, 波動を通じて物理学の考え方とそれより導かれる基本法則について解説する。 教科書: 原島鮮「物理学上巻」(学術図書)
物 理 学 (理) II	藤 田	I・II 後	原子物理, 量子論の初等的解説
化 学 (理) I	曾 根	I 前	化学のもっとも基礎的な部分をなす気体・液体・固体・溶液の諸法則を, 高校で化学を選択しなかった学生にもわかるよう, 入門的に解説 教科書: 吉岡甲子郎「物理化学大要」(養賢堂)
化 学 (理) II	塩 田	I 後	有機化学の基礎
生 物 学 (理) I	新 関	I 前	遺伝学入門。基礎的な知識と新しい発展について解説する。
生 物 学 (理) II	塚 本	I 後	生理化学を学ぶのに必要な生体内物質, エネルギー代謝等に関する基礎的な知識を得る。
地 学 (天文気象)	小 林	I 前	天文学と気象学が対象とする現象と社会・経済諸活動に及ぼす影響について, 基礎事項に力点をおいて概説する。 参考書: 関岡満「気象学」(東京教学社) " : 大沢清輝「天文学」(東京教学社)

科 目	教 官	学 年	内 容
地学 (地質・鉱物)	諏 訪	I 前	固体地球や日本列島の成り立ち, 地震・火山活動などについての基礎知識。教科書: 日本学校安全会編「学校における防災必携」, 参考書: 諏訪彰編著「日本の火山活動—戦後36年の記録 (写真集)」(共立出版)
統 計 学 I	鍋 谷	I 前	データの記述, 確率, 分布, 推定, 検定などについて, 統計学の基礎になっている考え方を中心に講義する。 教科書: ホーエル著, 浅井・村上共訳「初等統計学」(培風館)
環 境 科 学	根 本	I・II 後	(環境科学への自然科学的序章) 人間活動による環境汚染 (主として大気環境の汚染) とその気候におよぼす影響について概説する。
電 子 計 算 機 講 義 ・ 実 習	竹 沢 橋 爪 石 黒	夏 期 休業中	FORTRAN 77 による電子計算機プログラム作成の講義と実習。数学科・物理学科学生は除く。(30名まで) 教科書, FORTRAN 77 プログラミング入門 (竹沢他, 共立出版): 日程その他は夏期休業前までに掲示する。
一 般 物 理 学 実 験	富 永 窪 田(健)	II 前	基礎的な物理実験。「物理学(理 I)」, 「物理学(理 II)」, 「初等波動・熱学」, 「初等電磁気学」のうちいずれか 1 科目の単位を取得していなければ履修できないので注意のこと。(25名まで)
一 般 化 学 実 験	前 田	II 後	化学の基礎となる実験「化学(理 I)」, 「化学(理 II)」のうちいずれか 1 科目の単位を取得していなければ履修できないので注意のこと。(30名まで)
一 般 化 学 実 験	倉 田 本 間 久 保 田	II 後	化学の基礎となる実験。「化学(理 I)」, 「化学(理 II)」のうちいずれか 1 科目の単位を取得していなければ履修できないので注意のこと。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
総合コース			

生きる一人間と社会— 高木・三木・鷹野・小倉・中川（人文分野）
浅見・荒川・原（社会分野）
松本・石和・塩田・式（自然分野）

一般教育科目の各分野にわたる共通な一つの主題について、総合的に学ぶものである。講義内容については、別刷パンフレットを配付する。
主として二年生対象

履修単位数：4単位、ただし二年度以上履修した場合、計8単位までが一般教育科目の単位として数えられる。
ただし、各分野で最低8単位修得すべき単位には含まれない。
セミナー：総合コースの成果をあげるため、前・後期、各1～2回程度セミナーを行う。

試験方法等：詳細については、別刷パンフレットを参照のこと。

(外国語科目) 英 語

科 目	教 官	学 年	学 内 容
初級	海老根	文I A	Wade 他 <u>The Jazz Age</u> (研究社) ¥ 590
"	酒本 外山	文I A	Alison Lurie : <u>The Language of Clothes</u> (英宝社, ¥ 1,100)
"	三谷	文I B	Richard Jeffries : <u>Rural England</u> (研究社)
"	吉岡	文I B	D. H. Lawrence : <u>The Lovely Lady & Other Stories</u> (成美堂)
"	海老根	文I C	Wade 他 <u>The Jazz Age</u> (研究社) ¥ 590
"	山口	文I C	A. M. Barclay, et al. : <u>A Guide to Contemporary College Life</u> (大阪教育図書), および C. A. Mace : <u>The Psychology of Study</u> (開文社)
上級	篠塚	文II A	R. Hoban : <u>Mouse and his Child</u> (Penguin)
"	井上	文II A	Laurens van der Post : <u>Flamingo Feather</u> (Penguin) アフリカ生れで英国在住の作家ヴェン・デル・ポストの幻想的な冒険小説。〈大いなる夢〉を解読する推理小説仕立ての作品でもある。
"	山口	文II B	D. Keene : <u>The Distinctiveness of the Japanese</u> (朝日出版), および P. & C. Martin : <u>From England with Love</u> (南雲堂)
"	海老根 木原	文II B	Endymion Wilkinson : <u>Misunderstanding</u> (中央公論社) ¥ 1,300

科 目	教 官	学 年	学 内 容
上 級	海老根	文 II C	Endymion Wilkinson: <u>Misunderstanding</u> (中央公論社) ¥1,300
"	吉 岡	文 II C	Twentieth - Century British Authors, Vol. III (金星堂)
初 級	未 定	理 I A	未 定
"	吉 岡	理 I A	D. H. Lawrence: <u>The Lovely Lady & Other Stories</u> (成美堂)
"	寺 津	理 I B	E. Bono: <u>The Mechanism of Mind</u> (Pelican)
"	井 上	理 I B	K. Mansfield: <u>The Garden Party & Other Stories</u> (南雲堂)
上 級	寺 津	理 II A	J. Britton (1970) <u>Language and Learning</u> を読む。
"	田 中	理 II A	Evelyn Waugh の <u>Brideshead Revisited</u> を読んで、英国の大学生たちの青春像を見て行きたいと思います。
"	篠 塚	理 II B	K. M. Peyton: <u>Flambards</u> (Penguin)
"	井 上	理 II B	E. Waugh: <u>The Loved One</u> (金星堂)
初 級	未 定	家 I A	未 定
"	鈴 木	家 I A	一般教養課程における英語の運用能力を身につけさせる事を目的にして、読み、書き、話し、聴く、という面での訓練をする。教科書は最初の時間に決める。
"	小田川	家 I B	P. S. Buck: <u>The Child Who Never Grew</u>

科 目	教 官	学 年	学 内 容
初 級	田 中	家 I B	英国の建築、特に Country House の歴史を通じて、英国の近代の形成を見て行きたいと思います。テキストは <u>Spirit of the Age</u>
上 級	宮 川	家 II A	E. Nesbit: <u>The Phoenix and the Carpet</u> (Puffin Books)
"	園城寺	家 II A	R. Brasch, E. Seidensticker, D. Morris などの著作を通して、言語と文化、文学と社会などについて学ぶ。
"	海老根	家 II B	Endymion Wilkinson: <u>Misunderstanding</u> (中央公論社) ¥1,300
"	三 谷	家 II B	Aldous Huxley: <u>Music at Night</u> (南雲堂)
英会話演習全 Ia	ルイス 宮 川	I	English 900 Book 4 (Macmillan) (Old Edition)
英会話演習全 Ib	ルイス	I	English 900 Book 4 (Macmillan) (Old Edition)
英会話演習全 II	クレイ ン	II	ENGLISH II: This course will emphasize listening comprehension practice. There will be some writing, reading, and conversation, too. The course will be taught entirely in English. Students should bring their workbook and a dictionary to class every week. TEXT: LISTENING CONTOURS Workbook (2nd edition) by Michael Rost c. 1981, Lingual House

ドイツ語

科 目	教 官	学 年	学 内 容
初 級		I	文法と演習は毎週それぞれ2時間ずつ通年合計2単位。読本は毎週2時間ずつ通年2単位。各級とも文法・演習・読本合計6時間4単位履修。
"	杉 本	文 I A (文法)	志田・杉本：「ドイツ語の文法(改訂版)」(第三書房)
"	杉 本	文 I A (演習)	同 上
"	中 田	文 I A (読本)	平尾浩三：「改訂新版 新しいドイツ語読本」(同学社)
"	石 丸	文 I B (文法)	志田・杉本：「ドイツ語の文法(改訂版)」(第三書房)
"	石 丸	文 I B (演習)	同 上
"	松 尾	文 I B (読本)	ラウ・杉本：「初級ドイツ語文法読本」(芸林書房)
"	杉 本	理 I A (文法)	志田・杉本：「ドイツ語の文法(改訂版)」(第三書房)
"	杉 本	理 I A (演習)	同 上
"	中 村	理 I A (読本)	R・シンチンガー、植田敏郎：「白水社ドイツ語読本(改訂版)」(白水社)
"	菅 野	理 I B (文法)	志田・杉本：「ドイツ語の文法(改訂版)」(第三書房)
"	渡 辺	理 I B (演習)	諏訪功：「諏訪・ドイツ文法読本」(三修社)
"	長谷川	理 I B (読本)	シュルツグリースバハ・猿田：「外国人のためのドイツ語」(郁文堂)

科 目	教 官	学 年	学 内 容
初 級	宮 原	家 I A (文法)	内藤道雄：「改訂・内藤ドイツ語初級文法」(同学社)
"	千 艘	家 I A (演習)	大岩信太郎：「文法的配列によるやさしい独作文」(三修社)
"	渡 辺	家 I A (読本)	Baudère, 福岡四郎他：「初級読本・スイスへの旅」(郁文堂)
"	石 丸	家 I B (文法)	志田・杉本：「ドイツ語の文法(改訂版)」(第三書房)
"	石 丸	家 I B (演習)	同 上
"	中 村	家 I B (読本)	古賀允洋：「初級ドイツ語読本 スザンネとハイッツ」(第三書房)
上 級	宮 原	文 II A	Arthur Schopenhauer: Über Lesen und Bücher (三修社)
"	石 丸	文 II A	Joseph Roth: Triumph der Schönheit (白水社)
"	上 野	文 II B	Anna Seghers: Der Prophet (南江堂)
"	杉 本	文 II B	Sigmund Freud: Der Dichter und das Phantasieren (同学社)
"	喜多尾	理 II A	le Fort: Die Tochter Jephthas (南江堂)
"	長谷川	理 II A	Carl Friedrich von Weizsäcker: Der Mensch, Äußere und Innere Geschichte (郁文堂)
"	上 野	理 II B	Hans Fallada: Geschichte vom Unglückshuhn (三修社)

科 目	教 官	学 年	学 内 容
上級	石丸	理ⅡB	Carl Friedrich von Weizsäcker : DieRolle der Wissenschaft in den siebziger Jahren (郁文堂)
"	菅野	家ⅡA	飯塚信雄・岩壁融注：Die Kartoffel siegte doch… (南江堂)
"	千艘	家ⅡA	Hans Carossa : Das Jahr der schönen Täuschungen (郁文堂)
"	喜多尾	家ⅡB	Torberg : Das Taschentuch (三修社)
"	松尾	家ⅡB	志田麓・松尾直美編注：「ドイツ音楽のフィエトーン」(芸林書房)
独 語 高 級 A	中田	文Ⅲ・IV	H. Hesse : Der Beichtvater (郁文堂)
独 語 高 級 B	上野	理・家Ⅲ・IV	Carl Friedrich von Weizsäcker : Wohin führt uns die Wissenschaft (郁文堂)
独 会 話 (初級)	ジークリト・酒井		初回に決める。
独 会 話 (上級)	ジークリト・酒井		初回に決める。

フランス語

科 目	教 官	学 年	学 内 容
初級		I	文法と演習は毎週それぞれ2時間ずつ通年合計2単位。読本は毎週2時間ずつ通年2単位。各級とも文法・演習・読本合計6時間4単位履修。
"	石川	文ⅠA (文法)	窪川著「新しいフランス語文法」(駿河台出版社, ¥480)
"	金子	文ⅠA (演習)	窪川著「新しいフランス語読本」(駿河台出版社, ¥680)
"	田部井	文ⅠA (読本)	清水他著「サ・イラ (初級フランス語読本)」(白水社, ¥900)
"	小野	文ⅠB (文法)	朝倉剛著「生きたフランス語入門」(第三書房, ¥1,200)
"	朝倉	文ⅠB (演習)	{なお、文法・演習の両クラスで同じテキストを用いるから、かならず両クラスに出ること。}
"	中沢	文ⅠB (読本)	中川・Silberschlag 共著「こんにちはカロリーヌ 一新装版」(駿河台出版社, ¥950)
"	中村	理Ⅰ (文法)	『朝倉フランス語文法』(白水社, ¥800)
"	支倉	理Ⅰ (演習)	{なお、文法、演習の両クラスで同じテキストを用いるから、かならず両クラスに出ること。}
"	田部井	理Ⅰ (読本)	「パルレ・フランセ」(改訂版), 東京外国語大学フランス語研究室編, (白水社, ¥1,100)

科 目	教 官	学 年	内 容
初級	中川	家 I (文法)	目黒著「やさしく学ぶフランス語」 (第三書房, ¥950)
"	文倉	家 I (演習)	{[なお, 文法・演習の両クラスで同じテキストを用いるから, かならず両クラスに出ること。]}
"	後藤	家 I (読本)	中山真彦/アンドレ・ガルデラ著「アスティエ氏の生活と意見」 (白水社, ¥900)
上級		II	上級講読は, 毎週2時間単位で通年2単位。各級とも毎週4時間4単位履修。
"	石川	文II A	小林路易著「仏作文入門」(芸林書房, ¥980)を用いて, 初歩のテーマをおこなう。
"	中川	文II A	Th. Duret 著「印象派画家たちの歴史」 (芸林書房, ¥550)
"	中村	文II B	フローベール『狂人の日記』 (三修社, ¥420)
"	石川	文II B	佐分・桜木編「メグレと浮浪者」(朝日出版社, ¥780)
"	加納	理 II	グルニエ「犬の死をめぐる」(白水社, ¥850)
"	後藤	理 II	慶応大学フランス語研究室編「フランス展望」(白水社, ¥900)
"	中村	家 II	フルニエ『モーヌの大将』 (朝日出版社, ¥780)
"	中沢	家 II	「逃亡者」(芸林書房, ¥500)と 「第十一号船室」(白水社, ¥900)

科 目	教 官	学 年	内 容
高級フランス語	石川	III・IV	テキスト未定(受講者の学習目的や専門などを参考にして, 最初の授業時に決める)。
仏会話初級	ミシェル 水林	II~IV	教室で適宜プリントを配付する。
仏会話上級	ジャンタル 滝野	II~IV	ビデオ・カセットを活用した授業をおこなう。
"	中山	全 II	オーラル・インプットによる授業を試みる。 テキストは不要。
"	平松	全 II	最近の短編小説から比較的やさしい作品を選んで講読する。テキストはコピーして授業中に配付予定。
"	黎	全 II	現代中国の文学作品を精読する。本文の拼音化, 四声, 構法, 語訳, 翻訳, 意訳などについて講読する。
"	黎	全 II - IV	NHKの「基礎英語」を用い, その場で中国語に訳し, 会話に移す。ヒアリングを訓練するために, 民謡を聞かせて聴取させる。

ロシア語

科 目	教 官	学 年	内 容
初級	水野	全 I	テキストは開講時に指示する。
"	山本	全 I	"
"	山本	全 I	"
上級	水野	全 II	"
"	千野	全 II	"
ロシア語会話	ライヤ 奥田	全	"

中国語

科 目	教 官	学 年	内 容
中国語初級	佐藤	全 I	現代中国語の基礎、特に読解のための基本文型・語法を中心に学習する。後半は作品を読む予定である。テキストは『統合中国語課本』 光生館 ¥850
"	頼	全 I	『新中文テキスト』（金星堂 ¥1,100）使用
"	平松	全 I	発音と基礎的な句型を習得することに重点をおくので、練習問題を中心に授業をすすめる。テキスト：宮田一郎・陳文芷編『中国語作文テキスト』 光生館 ¥980
中国語上級	中山	全 II	オーラル・メソッドによる授業を試みる。テキストは不要。
"	平松	全 II	最近の短編小説から比較的やさしい作品を選んで講読する。テキストはコピーして授業中に配る予定。
中国語高級	黎	全 III	現代中国の文学作品を精読する。本文の拼音化、四声、語法、語釈、翻訳、鑑賞について講義する。
中国語会話	黎	全 II ~ IV	NHKの『基礎英語』を用い、その場で中国語に訳し、会話に移す。ヒアリングを訓練するために、民話を聞かせて通訳させる。

保健体育科目

科 目	教 官	学 年	内 容
保健体育講義	興森 水 下	全I前	日本人の健康と体力、世界のスポーツ等の現状、女子の体育、大学生の保健等について概説する。
体育実技	興森 水 石黒 下 片岡 佐藤 三浦 三須 武井 大藪	I・II	1年前期は基礎運動を行ない、1年後期及び2年前後期において、ダンス、徒手体操、マット運動、手具運動、バスケットボール、バレーボール、テニス、卓球、バドミントンなどを行なう。
体育実技 (第二コース)	興石 水 片岡 黒 成田 片岡 三須 川辺 豊田 富松	I~IV	別に定める学内及び学外の実習計画に参加する。(スキー、水泳、オリエンテーリング、モダンダンス、選択球技など30時間)

留学生特別科目

科 目	教 官	学 年	内 容
日本事情II	池田	外国人 学 生	教材は教室で指示する。
日本事情III	池田	外国人 学 生	教材は教室で指示する。
日本語I	西原	外国人 学 生	内容は開講時に指示する。
日本語II	池田	外国人 学 生	文学作品を読む。読解・作文・文法・表現の力を養う。教材は教室で指示する。
日本語III-A	池田	外国人 学 生	VTRを用いて聞く力、話す力を養う。
日本語III-B	西原	外国人 学 生	内容は開講時に指示する。
日本語IV	池田	外国人 学 生	社会科学系の諸作を読む。読解、要約、作文に力をいれる。

教職専門科目

科 目	教 官	学 年	内 容
教 育 心 理	春日	文教育 I~IV 前	人格と適応の問題を中心に、教育心理学の諸問題について考える。
教 育 心 理	本儀	理・家政 I~IV 前	発達と教育の関係についての概説。
青 年 心 理	吉田(博)	II・III (文教育) 後	人間発達の過程における青年期のもつ意義を明かにし、青年期に関する諸理論を概説する。また、わが国の青年と諸外国の青年について比較考察する。
青 年 心 理	大日向	理・家政 II・III 後	人間の一生の中で青年期のもつ発達の意義をおさえ、合わせて青年期特有の諸問題について触れる。特に女子青年の心理発達を重点的に扱う。
教 育 原 理 I	上野 小川	文教育 II・III 前	教育の目的、概念、制度、教育の内容方法にふれることにより、教育の全体像をあきらかにする。
教 育 原 理 II	河野	II・III 後	現代の教育における生活指導の問題を中心に考えていく。
教 育 原 理 I・II	山本	II・III (理・家政)	教育とは何かを追究するため、教育の目的・内容・方法等を概説する。
道 徳 教 育 の 研 究	尾田	I~IV (前期文 教・後期 理・家政)	道徳教育の意義と方法について。教科書：「道徳教育の実践」(学陽書房)
教 育 哲 学	中森	I~IV 前	教育学の歴史を問題史的理念史的な見地から考察しながら、教育作用の本質的な諸問題を哲学的に解釈することを試みる。

科 目	教 官	学 年	内 容
教 育 史	渡部	I 前	日本の教育の問題状況を、戦後教育史にそくして検討・講義。子供を中心にした親と学校・教師と地域社会と行政のあるべき参加と協力の姿をさぐりたい。
教 育 社 会 学	新井	II・III 後	人間の発達にかかわる問題を、特にわが国の社会的・文化的特質と関連させて考える。
教 育 行 政 学	杉原	I~IV 前	教育基本法の原理を考察して、公教育の基本的あり方を考察する。 教科書「学校小六法」(協同出版) 「教育基本法」(日本評論社)
社 会 教 育	笹川	II~IV 前	現代における人格危機の端的なあらわれである、自殺・犯罪・非行とその原因を考え、たうえで、危機克服のための、地域における教育・文化活動の組織化とその公的保障を、成人の発達を軸に考える。
教 育 実 習		IV	高校・中学校教員のための実習(2単位) 小学校・幼稚園教員のための実習(4単位)
小 学 校 教 材 研 究		I~IV 前 前 後 後	小学校の社会、理科、国語、算数の各教科の教材研究。
社 会 理 科 国 語 算 数	(深山) (阿久沢) [生駒] [本田]		
保 育 内 容 の 研 究		I~IV	別に定める科目から単位を修得する(「学生便覧」及び「教育職員免許法に関する科目認定一覧表」を参照)。
書 道	本郷	I~IV 前	○毛筆(小筆)使用。ひらがな、変体かなを主とする。手本：あきつ仮名帖 ○ペン(ペン先は開講時に指示)使用。漢字を主とし、実用を目的とする。手本：仲田式のペン習字(日本習字普及協会)

科 目	教 官	学 年	内 容
幼 小 体 育 実 技	片岡石黒	I～IV 前	幼児、小学生を対象とした基本の運動及び表現法について学ぶ。
幼 小 体 育 実 技	長澤	I～IV 後	なわ・ボールなどの手具や器械器具を使って基本的な運動の実技を行う。また、運動の観察法や系統性などについても概説する。
ピ ア ノ V	橋	I～IV	幼稚園・小学校の教員として必要な程度のピアノ演奏法。初心者教材は、「ピアノの本」橋編。4名1クラス。隔週通年授業。
声 楽 V	橋	I～IV	幼稚園・小学校の教員として必要な程度の歌唱研究及び伴奏の研究。4名1クラス。隔週通年授業。
合 唱 指 揮 法 II	橋	I～IV	幼稚園・小学校の教材程度の合唱曲の研究と指揮実習。
(教科教育法)		III	高・中教員希望者は第3年次において各教科毎に講義2単位を履修し、第4年次のはじめ「観察参加」として1単位履修計3単位。
社 会 科 教 育 法	野口門田	III 前	学習指導要領に準拠しながら、社会科教育の目標・内容・方法など、できるだけ具体例をまじえて概説する。 使用テキスト：社会認識教育学会編「中等社会科教育学」(第一学習社)
国 語 科 教 育 法	古屋	III 前	国語科教育の目標・内容・方法等について、中学校・高等学校に分けて、概説する。 使用テキスト：「新版国語教育学研究」(学芸図書)
中 国 語 科 教 育 法	頼	III 後	中国語の表記についての歴史を講述する。

科 目	教 官	学 年	内 容
英 語 科 教 育 法	宮川園城寺	III 前	Otto Jespersen : <u>Essentials of English Grammar</u> 英語教育の現状、英学から英語教育への展開、目的論、教材論、方法論、学習指導案などについて「現代の英語科教育法」を参考にして講義する。
仏 語 科 教 育 法	中川	III 後	内容は開講時に指示する。
保 健 体 育 科 教 育 法	梅本	III 後	保健体育科の学習指導の理論と授業に関する諸問題の研究。テキスト「中学校指導書保健体育編」(東山書房)
音 楽 科 教 育 法	久保	III	日・欧米諸国の音楽教育の思潮・変遷から音楽教育の在り方を採り、中・高校の音楽科教育の目標、内容、指導方法、評価などについての研究を行う。
数 学 科 教 育 法	橋本	III 前	将来、中学・高校の数学教員になるものに対して、演習を通しながら、基本的な内容を概説する。 参考書：中学校指導書数学編(文部省)
理 科 教 育 法	石川	III 後	1.日常生活を取り巻く科学技術の変化 2.日常生活の変化に対応する理科教育 3.理科教育における実験の位置づけ 4.物理化学生物地学の別とその統合 5.コンピュータと理科教育
家 庭 科 教 育 法	武藤	III 前	中・高校の家庭科教育の目標・特質・変遷・指導方法・評価などについて研究をすすめる。テキスト(新版 家庭科教育法 学文社)

哲 学 科

科 目	教 官	学 年	内 容
哲学概論	土屋	Ⅱ～Ⅳ	哲学のさまざまな問題と解決の仕方を批判的に検討し、それらの問題がどこから出てくるかを考える。
哲学講義演習Ⅰ	熊谷	Ⅲ・Ⅳ	シェーラーの Der Formalismus in der Ethik und die materiale Wertethik をテキストとして、特に価値及び価値意識の問題を考える。
哲学講義演習Ⅱ	土屋	Ⅱ～Ⅳ	ヴィトゲンシュタインは、「私的言語」はありえないと主張した。その主張の意味を探るために、さまざまな解釈を研究する。主なテキスト：S. A. Kripke, Wittgenstein on Rules and Private Language.
哲学講義演習Ⅴ	土屋	Ⅰ 前	哲学入門ゼミ。哲学書を読んで哲学の実際を知ってもらう。テキストは最初の時間に指定する。
哲学特殊講義Ⅰ	熊谷	Ⅲ・Ⅳ 後	「言語について」一特に現象学派と言語分析学派の人々の言語論を取上げ、そこに伏在する諸問題を論ずる。(後期のみ)。
哲学特殊講義Ⅱ	土屋	Ⅲ・Ⅳ	アリストテレス『ニコマコス倫理学』研究。英訳を使用。
近世哲学史	熊谷	Ⅱ～Ⅳ	ルネッサンス以降の西欧の哲学史を概観し、そこに取上げられた諸問題の意味を考える。
哲学講義演習Ⅲ	尾田	Ⅱ～Ⅳ	倫理学講義演習Ⅱをもって代替できる。

科 目	教 官	学 年	内 容
哲学講義演習Ⅳ	伊 藤	Ⅲ・Ⅳ	デカルトの思想をまず概説し、『形而上学省察』の後半を精読する。仏文のテキストを中心にラテン本文を参照しつつ読むが、英訳による参加も歓迎する。 テキスト：Descartes, Méditation métaphysique (Bibliothèque des Textes philosophiques) J. Vrin.
哲学特殊講義Ⅰ	藤 本	Ⅱ～Ⅳ 前	「人間とは何か」を哲学的に考え直す試み。人間の生・性・死、運命、言語、倫理、倫理などが話題になる。教科書は用いないが、参考文献はそのつど紹介する。
哲学特殊講義Ⅲ	吉 田	Ⅱ～Ⅳ	言語が表現しようとしているものと言語との関係を考えることを中心にして、哲学の諸問題について論ずる。
倫理学講義演習Ⅰ	高 島	Ⅲ・Ⅳ	日本の中世の無常観を、さまざまな原典を読むなかで考えてゆく。テキストは授業のはじめに指定する。
倫理学講義演習Ⅱ	尾 田	Ⅱ～Ⅳ	カント倫理学研究。テキスト：Kant, Kritik der praktischen Vernunft.
倫理学講義演習Ⅲ	尾 田	Ⅰ 前	新入生のための倫理学入門ゼミ。テキスト：広瀬京一郎著「生きるということ」(勁草書房)
倫理学特殊講義Ⅰ	高 木	Ⅱ～Ⅳ	現代日本の宗教現象について考察する。まず基礎的理論をとらえ、具体的な宗教集団について検討する。(見学を含む)。
倫理学特殊講義Ⅱ	高 島	Ⅲ・Ⅳ	日本の近世の神道論を、本居宣長の『玉勝間』(テキスト、岩波日本思想大系)などを読みながら考えてゆく。
日本倫理思想史	高 島	Ⅱ・Ⅲ	日本における自我のあり様を、超越的なものとの関連において問題にする。

科 目	教 官	学 年	内 容
倫理学概論	小 倉	Ⅱ～Ⅳ	ギリシア以来の西洋倫理思想に即して人格、価値、行為等の倫理学基本概念の講述。但しこの講義は家政学原論でもあるから、それらの概念も家政、家庭生活を特に注目する。教科書、小倉編『倫理学概論』(以文社)
倫理学特殊講義Ⅲ (精神分析学と倫理)	湯 浅	Ⅲ・Ⅳ 前	フロイトとユング(殊に後者)の深層心理学が、倫理学にとってもつ意味を理論的および思想的に考察。 参考書：湯浅著「ユングとキリスト教」(人文書院)同「東洋文化の深層」(名著刊行会)
西洋倫理思想史	秋 田	Ⅰ～Ⅳ	西洋倫理思想の源流にさかのぼり、古代ギリシア、ヘブライ思想を、ヘブライ思想(旧新約聖書の思想)に焦点をあてながら比較してとりあげる。参考書：秋田稔「聖書の思想」(塙新書)
東洋倫理思想史	楠 山	Ⅱ～Ⅳ	中国文学科楠山講師「中国文芸思想史」がこれにあたる。
美学美術史講義演習Ⅰ	坂 本	Ⅱ～Ⅳ	フランス語の原書講読。テキスト未定。
美学美術史講義演習Ⅱ	坂 本	Ⅰ～Ⅲ	日本・東洋美術に関するテーマを選び、一年間演習を行ない、年度末に研修旅行を実施。
美学美術史講義演習Ⅲ	坂 本	Ⅰ 後	美術史入門のためのテキスト講読。テキスト未定。
美学美術史講義演習Ⅳ	坂 本	Ⅲ・Ⅳ	小論文の講読と学生の研究発表。
美学美術史特殊講義Ⅰ	坂 本	Ⅱ～Ⅳ	近世(16～19世紀)美術について、西欧美術の展開と中南米および東洋へのその波及。西洋美術史に代えうる。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
美学美術史特殊講義 II	浅野	II~IV	明治末期から大正期の日本の近代美術の展開を中心に述べながら、あわせてその時期の美術に影響をおよぼしたヨーロッパ美術の動きについても触れる。
美学美術史特殊講義 III	林	III・IV	仏教図像学および仏教美術の東伝、ことに昨年度にひきつゞき、中国、朝鮮よりわが上代美術への展開について講述する(カラースライド使用)。東洋美術史に代える。
美学美術史特殊講義 IV	青柳	II~IV	ギリシア・ローマ美術と周辺諸美術の関係を中心に、両者の造形上の特質と相互的影響の在り方を考察する。西洋美術史に代える。
美学美術史特殊講義 V	戸田	II~IV	中国絵画史上の代表作・問題作を各時間ごとに一点づつとりあげ、様々な角度からこれを分析し、全体としては絵画史の大きな流れが分るようにつとめる。東洋美術史に代える。
美学美術史特殊講義 VI	長塚	II~IV	西洋中世美術史。壁画を中心に、キリスト教図像学、中世絵画様式について述べる。扱う範囲は、カパドキア(トルコ)、ラコニア(ギリシア)、ウンブリア(イタリア)を主とする。西洋美術史に代える。
社会哲学講義演習 I	宮島	III・IV	現代フランスの社会学者 Alain Touraine の論文(仏語、コピー配布)を読みながら、現代社会とは何かを考えてみたい。
社会哲学講義演習 II	江原	II~IV	現象学以後の社会学の動向に焦点をあてその基本的動向をさぐる。テキストは、最初の時間に指定する。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
社会哲学講義演習 III	宮島	II~IV 前	社会学研究の初歩として現実感覚をやしなうため、相談の上具体的テーマを取り上げ討論を行ないたい。
社会哲学講義演習 IV	江原	I 後	新入生のための入門ゼミ。社会問題や歴史的な文脈のなかで、「社会とは何か」「社会を考えることとは何か」をさぐる。テキストは、最初の時間に指定する。
社会哲学特殊講義 I	宮島	II~IV	現代日本の社会意識。社会意識研究の課題と方法について述べ、今日の日本でどのような状況が問題となっているかを、生活意識、労働意識、政治意識などにわたって明らかにする。テキスト：宮島『現代社会意識論』(日本評論社)
社会哲学特殊講義 II	高木	II~IV	現代日本の宗教現象について考察する。まず基礎的理論をとらえ、具体的な宗教集団について検討する(見学を含む)。
社会哲学特殊講義 III	江原	II~IV	社会変動、特に社会規範や価値の変動に焦点をあて、その説明枠組について考察する。
社会哲学概論	荒川	II~IV	社会構成論の三類型を、近代社会理論の歴史から抽出し、その現代社会理論における変容を追跡する。
社会哲学特殊講義 IV (共通科目・社会学特講 II)	小林	II~IV	社会福祉の基本的枠組を検討し、現代社会における福祉の意味を考える。
社会哲学特殊講義 V (共通科目・法学特講 II)	広渡	II~IV	できるだけ広い範囲でテーマをとりあげ、日本と西ドイツを比較しながら、両国の法文化のちがいをさぐってみたい。

科 目	教 官	学 年	内 容
経 済 理 論 (共通科目・経済学特 講Ⅱ)	柴 垣	Ⅱ～Ⅳ 前	昨年につづきマルクス『資本論』を読む。 今年は第1部第4篇「相対的剰余価値の 生産」から。大月書店国民文庫版の第1、 2分冊をテキストとする。できれば第3 篇まで読んでおくこと。
経 済 理 論 (共通科目・経済学特 講Ⅱ)	横 倉	Ⅱ～Ⅳ 後	近代経済学の基礎理論を、市場機構の機 能と限界を中心に講義するとともに、ミ クロおよびマクロの経済政策についても 触れる。
経 済 史 (共通科目・経済学特 講Ⅰ)	関 口	Ⅱ～Ⅳ 前	欧米近代産業社会の形成・発展を世界史 の流れのなかで考察し、その人間的基礎、 後進諸国への影響にも論及する。参考書： 大塚久雄「西洋経済史」(筑摩書房)、石 井・関口「世界市場と幕末開港」(東大 出版会)
経 済 史 (共通科目・経済学特 講Ⅰ)	橋 本	Ⅱ～Ⅳ 後	なぜ日本経済は急速に成長したのかとい うことについて理解を深めることを目的 にして、日本における資本主義の発達史 を概説する。教科書は授業で指示するが 予備知識はなくともよい。
政 治 理 論 (共通科目・政治学特 講)	藤 井	Ⅲ・Ⅳ	近・現代の日中関係を中心とする東アジ アの国際政治。
社 会 調 査 (共通科目・社会学特 講Ⅰ)	園 田	Ⅱ～Ⅳ	講義形式により、社会調査の意味と意義、 社会調査の計画と過程、データー蒐集の 技法等について概括的に説明し、これら と並行して現地調査の機会も用意したい。 テキスト：福武直『社会調査』岩波全書

史 学 科

科 目	教 官	学 年	内 容
史 学 概 論 (1)	平野孝	Ⅱ・Ⅲ 前	歴史学の基本的な物の考え方を、著名な 歴史家・思想家のそれをあつげながら 概述する。なお本コースには、日本史・ 東洋史・西洋史の教官による各専攻への 手引きも含む。
史 学 概 論 (2)	山 本	Ⅱ・Ⅲ 後	前期の講義をうけて、後期では歴史認識 と方法にかかわる論争史を扱う。日本史・ 東洋史・西洋史の教官の出席をえて、ゼ ミ形式をとることもある。
日 本 史 概 説 (1)	五 味	Ⅰ 前	中世史を中心とした概説。
日 本 史 概 説 (2)	大 口	Ⅰ 後	前期の概説のあとをうけて、近世以降の 歴史を講述する。
東 洋 史 概 説 (1)	蜂 屋	Ⅰ 前	中国近代史と日本近代史の諸問題を、西 方の外圧のもとにおけるさまざまな事件 (内政・外交上)と人物を対比的にとりあ げつつ、概観する。
東 洋 史 概 説 (2)	未 定	Ⅰ 後	
西 洋 史 概 説 (1)	福 井	Ⅰ 前	最近の西洋史学における歴史の捉え方 について、おもに近代史に焦点をあわせな がら考えてゆきます。
西 洋 史 概 説 (2)	桜 井	Ⅰ 後	古代ギリシアにおける民主政の成立の背 景をなすポリス社会の特質について、具 体的に史料に基づきながら講述する。本 参考文献：アリストテレス著「アテナイ 人の国制」(岩波文庫)
日 本 史 講 義 講 読 (1)	大 口	Ⅱ 前	江戸時代の古文書の講読。
日 本 史 講 義 講 読 (2)	青 木	Ⅱ 後	古代の文書・記録・編纂物などの読解。

科 目	教 官	学 年	内 容
東洋史講義講読(1)	佐 伯	Ⅱ 前	中国の革命史の問題に関し、欧米文献の中で、最も優れたものの一つであるところの“Bianco: Origins of the Chinese Revolution”の講読を行う。
東洋史講義講読(2)	岸 本	Ⅱ 後	清代歴史学文献の講読・解説。
西洋史講義講読(1)	桜 井	Ⅱ 前	前5世紀ギリシアのデロス同盟を支えた思想を主に宗教的側面から考察する。講読する論文は Barron, J. P. "Religious Propaganda of the Delian League" JH S84(1964) Perlman, S. "Panhellenism, the Polis and Imperialism," Historia 25(1976)他。
西洋史講義講読(2)	福 井	Ⅱ 後	フランス社会史に関する論文を読みます。フランス語のものを使うつもりですが、場合によっては英語文献にするかもしれません。
日本史特殊講義(A)	青 木	Ⅲ・Ⅳ 前	遣唐使に関する諸問題。
日本史特殊講義(B)	大 口	Ⅲ・Ⅳ 前	近世後期の政治と社会。
日本史特殊講義(C)	五 味	Ⅲ・Ⅳ 後	中世史の諸問題。
日本史特殊講義(D)	高 村	Ⅲ・Ⅳ	原始的蓄積、産業資本の形成・確立、帝国主義の形成、独占資本の確立など、日本資本主義の諸画期を検討する。 参考書：高村直助著「日本資本主義史論(ミネルヴァ書房)」
東洋史特殊講義(A)	佐 伯	Ⅲ・Ⅳ	中国近代(1840～1949)の経済史上の変革の過程とその持つ歴史的意義について、学説史の整理と、未開拓の局面の発見と新しい資料に基づき、将来の研究課題を求めてゆく。

科 目	教 官	学 年	内 容
東洋史特殊講義(B)	護	Ⅲ・Ⅳ	1) 日本における内陸アジア史研究 2) 古代遊牧国家, 3) シルクロードの成立について概観し, ついで, 4) 古代トルコ民族の信仰と文字の発生, 5) 北アジアの時代区分などについて考えたい。
東洋史特殊講義(C)	太 田	Ⅲ・Ⅳ	中国の前近代の『農書』を検討することを通して, 中国の農業技術, 農村生活とその発展について考えてゆく。
西洋史特殊講義(A)	山 本	Ⅲ・Ⅳ	ヴァイマル共和国から「第三帝国」崩壊の時期に至る社会史を「女性」というファクターを通して検討する。
西洋史特殊講義(B)	青 木	Ⅲ・Ⅳ	主として18世紀後半のイギリス政党政治史を扱う。急進主義の成長や産業革命の進展にホイッグ党がどう対応したかを考察したい。
日本史学演習(A)	青 木	Ⅲ・Ⅳ	「続日本紀」の輪読。
日本史学演習(B)	大 口	Ⅲ・Ⅳ	近世村落史料の輪読。
日本史学演習(C)	五 味	Ⅲ・Ⅳ	『玉葉』の講読。
東洋史学演習(A)	佐 伯	Ⅲ・Ⅳ	19世紀から20世紀の四半世紀の間に略々照準を定め、民衆運動に関りのある中国語文献を検討し、史料の読解法とその示す事実に関して問題整理討論を行う。
東洋史学演習(B)	岸 本	Ⅲ・Ⅳ	清代の対外貿易に関する史料を読む予定。(漢文・英文)
西洋史学演習(A)	平野孝	Ⅲ・Ⅳ	アメリカ史の重要な史料を講読する。
西洋史学演習(B)	山 本	Ⅲ・Ⅳ	ドイツ近現代史に関する文献・史料の講読。
考古学通論	鷹 野	Ⅲ・Ⅳ	縄文時代の人々の生活と、縄文時代の社会・文化についての諸問題。

科 目	教 官	学 年	内 容
史 蹟 調 査	岡 田	Ⅲ・Ⅳ 後	日本古代の都市遺跡(城柵跡をふくむ)の考古学的調査を通して、史蹟を歴史資料とする方法を考える。

地 理 学 科

科 目	教 官	学 年	内 容
地 理 学 概 論	浅 海	Ⅳ 前	地理学の原理と方法論、および課題と研究例について
地 理 学 概 説	井 内	Ⅰ 前	地理学の対象・方法を、現代世界の具体的な問題を事例として概説する。
経 済 地 理 学 Ⅰ	内 藤	Ⅱ 前	工業の立地展開と地域的条件の関係、工業化と地域の変貌を軸に経済地理学の基礎を解説する。
集 落 地 理 学	井 内	Ⅱ 前	1. 村落・都市の立地、発展、構造、機能の概説 2. 都市と村落の変貌
地 形 学 Ⅰ	式 式	Ⅱ 前	地形を系統的に理解できるよう地形形成営力、成因的分類、地形発達史などについて解説し、多数の実例を紹介しながらその環境的意義にもふれる。
地 質 学	浅 海	Ⅱ 前	土地の自然的性質、とくに地形・陸水・土壌の研究の基礎となる岩石・鉱物・構造地質・地史の概説。
気 候 学 Ⅰ	三 上	Ⅱ 前	気候学の基礎的事項を概説する。気象衛星写真等を用いて、視覚による理解を深める。
地 図 学	式 式	Ⅰ 前	地図記号、地図投影等地図に関する基礎的知識および地理学的地図判読、計測について解説する。各種の課題演習を伴う。
地 図 学 演 習	栗 原	Ⅰ 後	地理的事象の表現手段としての地図作成に必要な基礎的作業の習得。各種の課題演習を伴う。
地 理 学 演 習 Ⅳ	全 員	Ⅳ	卒業論文作成に関し、各指導教官によりわかれて演習がもたれるが、年3回程度の教官全員による合同ゼミがある。

科 目	教 官	学 年	内 容
地理学 巡 検	全 員	I ~ III	3年生対象に3泊4日(必須)、2年生対象に2泊3日(必須)の巡検の他に、各学年を対象に1日巡検が数回行なわれ、野外における観察、資料採集などの研究方法を現地指導によって習得させる。
日本地誌 I	内 藤	III 前	高度成長下の地域の変貌をテーマに主として東北日本の実態をみる。
日本地誌 II	栗 原	III 後	日本の農山漁村地域の地誌を中心にする。参考文献は、『日本の農業地域構造』(大明堂刊)、『農山漁村』(勁草書房)など。
外国地誌 II	高 橋	III 前	ヨーロッパ、とくにフランスの地域的特性を自然環境と人文環境(農業、工業、人口、都市、生活空間など)から講述する。
外国地誌 I	栗 原	III 後	ヨーロッパ南部諸国を対象とする。ヨーロッパ地域内部の後進地域としての南部諸国の諸問題を中心に各国の地誌を述べる。
地理学 演習 I	栗 原 井 内	III	社会地理学に関する基礎的文献(英文)の講読。
地理学 演習 II	浅 海 三 上	III	気候・地形・土壌その他第四紀全般のテーマに関する内外の文献・論文の講読。
地理学 演習 III	式 内 藤	III	内外の文献調査にもとづく地誌作成の研究。テキストはイギリス、Arnold 社の叢書 A Course in World Geography の Book 3 Regions of the World, Book 8 East Africa の2冊。
歴史地理学	山 田	II・III 前	歴史地理学とは、地域史でも地域変遷史でもない。地域主義に立脚して、地域の歴史的慣性を把握しようとするもう一つの地理学である。このことについて受講生とともに考えながら講義をする。

科 目	教 官	学 年	内 容
経済地理学 II	内 藤	II・III 後	工業の諸分野別に立地の特徴と地域形成およびその変動について述べる。具体的業種としては繊維工業と機械工業をとり上げる予定。
経済地理学 II	栗 原	III 前	様々な空間スケールにおける「空間的不平等」について、その実態、形成のメカニズムを中心に地理学の研究業績を基礎に論ずる。
都市地理学	井 内	III 後	1. 都市地理学の方法 2. 都市の空間的特性 3. 都市問題と地理学
土 壌 地 理 学	浅 海	III 前	土壌の生成原理、土壌型の分類と分布、および土壌と農林業土地利用との関連について。
地 形 学 II	式	II 後	気候帯によって異なる地形形成営力の種類と地形形成過程の相異を考察し、地形と他の自然要素との関連を体系的に解説し、地形の質的区分、地形分析の方法に及ぶ。
気 候 学 II	三 上	II 後	気候学の応用分野として、気候変動と気象災害をテーマに、具体例をあげながら解説する。
写 真 地 理 学	式	III 前	空中写真、リモートセンシング画像に関する基礎的知識と地理学的判読方法を解説し、各種の実例について判読演習を行なう。
自然地理学実験	三 上	III 前	野外における気候の観測実習および室内における各種気候図の作成実習。
自然地理学実験	浅 海	III 後	野外における地形・地質・土壌の観察、および土壌試料の室内分析実験。

科 目	教 官	学 年	内 容
計 量 地 理 学	内 藤	Ⅱ・Ⅲ 後	地域統計の処理にかかわる諸問題の解明。 統計学の応用と計算手法の解説を含む。
地 理 学 特 殊 講 義 Ⅲ	未 定	Ⅱ・Ⅲ 後	
地 理 学 特 殊 講 義 Ⅳ	大 友	Ⅱ・Ⅲ 前	人口の地域分布・地域間移動および地域 人口の動態・構造について講義する。
地 理 学 特 殊 講 義 Ⅴ	未 定	Ⅱ・Ⅲ 後	

国 文 学 科

科 目	教 官	学 年	内 容
上古中古日本文学史	平 野	I	古代日本文学の発生とその史的展開を概 観する。
中世日本文学史	三 木	Ⅲ	中世日本文学の史的展開を概観する。
近世日本文学史	堤	Ⅲ	近世日本文学の史的展開を概観する。
近代日本文学史	浅 井	Ⅱ・Ⅲ	近代日本文学の史的展開を概観する。 前年度よりの続講。
国 語 学 概 論	白 藤	I	国語学研究の諸分野について概観する。 教科書：築島裕著「国語学」(東大出版 会)
国 語 法 概 説	市 川	Ⅲ	日本文法の概説。
国 語 史 概 説	青 木	Ⅱ	古辞書を歴史的に概説し、利用上の注意 にも及ぶ。
国 語 表 現 法	市 川	Ⅲ	文章表現の理論と実際について考察し、 文体論にも及ぶ。
国文学講義講読Ⅰ	犬 養	Ⅱ	「源氏物語」須磨以後を取り上げて精読す る。
国文学講義講読Ⅱ	平 野	I	枕草子を講読する。
国文学講義講読Ⅲ	三 木	Ⅱ	「方丈記」を扱う。
国文学講義講読Ⅳ	堤 浅 井	I	前期は近世文学の作品を、後期は近代文 学の作品を取り上げて講読する。
国文学講義演習Ⅰ	犬 養	Ⅲ	王朝女流日記を取り上げ、中古文学の基 礎的研究を行う。
国文学講義演習Ⅱ	平 野	Ⅱ	古典文学研究のための基礎的演習。中古 の歌集をテキストとする。
国文学講義演習Ⅲ	三 木	Ⅲ	「宇治拾遺物語」を扱う。

科目	教官	学年	内容
国文学講義演習Ⅳ	堤	Ⅲ	近世小説のうちより取り上げて、近世文学の基礎的研究について演習を行う。
国文学講義演習Ⅴ	浅井	Ⅲ	明治大正期の小説を読む。
国語学講義演習Ⅰ	白藤	Ⅲ	「江談抄」の一本である「水言鈔」を資料に、読解を、古辞書などを使って行う。
国語学講義演習Ⅱ	市川	Ⅱ	語誌の実証的考察。
国文学特殊講義Ⅰ	遠藤	Ⅲ・Ⅳ	大伴家持論 — 初期の作品を中心に論じて行く。教科書：万葉集の全歌を収めるものなら自由。
国文学特殊講義Ⅱ	上野	Ⅲ・Ⅳ	伊勢物語を材料に、古今集時代の和歌・歌がたり・歌物語の特色と相互の関係について論じる。教科書は、定家本であれば、何でもよい。
国文学特殊講義Ⅲ	山中	Ⅲ・Ⅳ	栄花物語・大鏡などの歴史物語、また、女流日記および公家の日記（御堂関白記・小右記など）の作品を、その時代背景のなかにとらえて行く。さらに年中行事など、風俗史的な面を有職故実学的に考えて行きたい。
国文学特殊講義Ⅳ	大曾根	Ⅲ・Ⅳ	平安時代の漢文学について、主として詩賦文章を除いた雑文を取上げ、仮名文学との関係を考えてみたい。学者の書いた漢文の伝記や初等教科書及び往来物などを取上げる。テキストは不要。
国文学特殊講義Ⅴ	松尾	Ⅲ・Ⅳ	軍記文学及び平家物語について概説した後、屋代本平家物語巻12を読む。平家物語の構想・語り・古態性等について考えたい。教科書：『屋代本平家物語・下』桜楓社
国文学特殊講義Ⅵ	原	Ⅲ・Ⅳ	近松の生涯と作品を紹介しながら、近世演劇の特質について考察する。

科目	教官	学年	内容
国文学特殊講義Ⅶ	紅野	Ⅲ・Ⅳ	1910年～20年代の文学。漱石・潤一郎・啄木・直哉・武郎らを中心に、当時の雑誌を眺めつつ、時代と文学者との関係（とくに大逆事件）、芸術と実生活の問題について考える。昭和文学の源流についても言及する。文学と美術・文学と演劇との関連もあわせ見していく。

外国文学科 中国文学・中国語学

科 目	教 官	学 年	内 容
中国語学演習Ⅰ	中山	I	中国語の初歩。主に語法を中心として作文に重点をおく。テキスト：『標準中国語作文』正・続編。授業時に配布する。
中国語学演習Ⅱ	中山	I	中国語の初歩。講読を中心とする。テキストは授業時に指示する。
中国語学演習Ⅲ	佐藤	I	基本文型・語法を中心に学習する。テキストは『改訂基本文型 中国語初級テキスト』 光生館 ¥1,000
中国文芸思想史	楠山	I・II	前期は諸子百家の思想の特質を要説しつつ、何故に儒道二家が後世に残り得たかを考え、後期は、儒道二家と外来の仏教を加えて展開する中国思想の諸相を、いくつかの論点を設けて考察する。
中国文学史Ⅰ	近藤	I・II	いわゆる正統文学、詩文の、先秦から清朝までの史的展開を、つとめて作品にもとづきつつ、その批評史を併せて概説する。テキストは用いず、資料として適宜プリントを配布する。
中国文学史Ⅱ	佐治	II・III	五四以降の中国近代文学成立の過程を振り返る。若い文学者たちがいかに伝統と袂を分かち近代的自我を確立したか、いかに革命と関わったか、現代に残された課題は何か等を軸にして考察したい。
中国文学講義演習	近藤	I	「漢語構造論」本講は中国語の履習を前提とせず、漢文訓読について、なぜそう読むかを、漢語の基礎語法から解明する。前期はもっぱら講義、後期は文学作品を講読の予定。近接学科学生の利用に資することを期する。その場合、履習学年指定はない。
中国文学演習	黎	II・III	老舎の小説を選読する。

学語英・学文英 邦学文現代

科 目	教 官	学 年	内 容
中国文学講義講読Ⅰ	近藤	II～IV	「清詩文」 古典詩文の精密な読書力を養うことを目的として、先人の注解のまったくない資料を用いる。漁洋および竹汀詩文を中心とする予定。
中国文学講義講読Ⅲ	伊藤	II～IV	「魯迅の雑感文」 五四時代を前期に、1930年代を後期に取り上げたい。『熱風』をはじめ魯迅の雑文を読みながら、その現代への呼びかけをききとりたい。
中国文学特殊講義Ⅱ	伊藤	III・IV	「中国古典小説研究」 清末までの中国小説の変遷を概説する。魯迅著『中国小説史略』等の参考資料は、必要に応じコピーして配布する。
中国語学演習	黎	II～IV	「中国語の講読と会話」 中国語で講義する。
中国語学講義講読Ⅰ	中山	II～IV	「清朝章回小説」 『紅樓夢』と『儒林外史』の味読。
中国語学講義講読Ⅲ	黎	II～IV	「北京土語研究」 老舎の『四世同堂』『離婚』『趙子曰』などにおける北京土語の研究を行なう。
中国語学特殊講義Ⅱ	松本	II～IV	「中国語法研究」 中国語法に対するデッサンの記述である趙元任著、李榮編訳の『北京口語語法』（中国語）を講読しつつ、現代中国語の言語的特質について考察する。
中国語学概論	頼	II～IV	中古音を中心として、上古ならびに近世の語音史を概論する。
中国語作文Ⅰ	黎	II・III	日本の文学作品を中国文に翻訳する作業を通して、書く力を高める。
中国語会話Ⅰ	中山	II・III	中文で書かれた小説・論説・散文等を題材として、やゝ高度な会話力の習得をめざす。テキストは不要。

外国文学科 英文学・英語学

科 目	教 官	学 年	内 容
英文学演習Ⅰ	外山	Ⅰ	イギリスの戯曲を読む。
英文学演習Ⅱ	富山	Ⅰ	19世紀の英国女性の伝記を読む。
英文学演習Ⅲ	野島	Ⅱ	Nathaniel Hawthorne の <u>The Scarlet Letter</u> を読む。(テキストは英文研究室で購入すること)
英文学演習Ⅳ	酒本	Ⅱ	Longfellow. <u>Evangeline</u> (研究社, 小英文双書, ¥670)
英文学演習Ⅴ	酒本	Ⅲ	<u>Romeo and Juliet</u> (研究社, 詳注シェイクスピア双書, ¥1,900)
英文学演習Ⅵ	富山	Ⅲ	英文学に関する批評論文を読む。テキストは授業で指示。
英文学演習Ⅶ	野島	Ⅳ	D. H. Lawrence の <u>Sons and Lovers</u> を読む。(テキストは英文研究室で購入のこと)
英文学演習Ⅷ	富山	Ⅳ	Angus Wilson の小説を読む。
英文学演習 (他学科対象)	宮川	Ⅱ~Ⅳ	E. A. Poe : <u>Three Humorous Stories</u> (松柏社)
英文法演習	宮川	Ⅰ	松浪有・宮原文夫: 「現代英語文法」(南雲堂書店)
英作文演習 Ia	木原寺津	Ⅰ	2クラスに分ける。(木原)テキスト「続ディスカバー・ロンドン」(英友社, ¥880)。(後期の組は別の教科書を用いる)(寺津)英語を聴く力, 書く力をつけることをめざす。テキストは教室で指示する。
英作文演習 Ib	三枝	Ⅰ	自分の考えを自分の英語で表現する練習をする。英語のテープを聞くなどして, 毎回レポート用紙1枚程度の英語を書いてもらう。

外国文学科 英文学・英語学

科 目	教 官	学 年	内 容
英作文演習Ⅱ	ルイス	Ⅱ	English Composition Work-Book Mary Hall Chappel (Shinozaki Shorin)
英作文演習Ⅲ	宮川	Ⅲ	Peter Milward: <u>A Miscellany of Mistakes</u> (吾妻書房) その他を使用する。
英会話演習Ⅰ	ルイス	Ⅰ	English 900 Book 5 (Macmillan)(Old Edition)
英会話演習Ⅱ	ルイス	Ⅱ	English 900 Book 6 (Macmillan)(Old Edition)
英文学史Ⅰ	富山	Ⅱ	17~18世紀の英国詩を読む。英文研究室で作成したアンソロジーを使用。
英文学史Ⅱ	外山	Ⅲ	アンソロジーの詩文を読む。
アメリカ文学史	海老根酒本	Ⅱ	前期(海老根)に20世紀, 後期(酒本)に17~19世紀を扱う予定。講義の他に, 福田陸太郎編著『アメリカ文学思潮史』(中教出版)を参照するので用意すること。
英文学特講Ⅰ	野島	Ⅲ・Ⅳ	Hamlet を中心にして, Shakespeare の悲劇の本質を考える。
英文学特講Ⅱ	上島	Ⅲ・Ⅳ	イギリス近代詩講読。イギリス近代詩の古典とも言えるイェイツ, エリオット, オーデン, ディラン・トマスの代表的な作品を講読, 鑑賞する。テキスト: コルカット, 上島共編『現代英詩選』(北星堂)
英文学特講Ⅲ	大橋	Ⅲ・Ⅳ	二十世紀アメリカ小説について, できるだけ具体的に作品などを読みながら, 考えてみる。
英語学概論	木原	Ⅱ	英語史を中心に英語学全般にわたる。テキストは適当な諸書より抜粋してプリントする。

科 目	教 官	学 年	内 容
英語学特講Ⅰ	木原	Ⅲ・Ⅳ	「英文学に用いられた英語」について歴史的に解説する。講義形式で、必要に応じて教材をプリントする。
英語学特講Ⅱ	寺津	Ⅲ・Ⅳ	現代英語構造分析に関する雑誌論文を読む。
英語音声学	鈴木	Ⅰ	英語音声学の基礎的な理論と実際を研究する。 <u>Text: Living English Speech (Longman)</u> 前期は英文科の学生を対象に、後期は他学科の学生を対象にする。
英米事情	木原	Ⅲ・Ⅳ 後	英語英文学の背景的な知識を講義する。

科 目	教 官	学 年	内 容
フランス語演習Ⅰ	中村	Ⅰ	『朝倉フランス語文法』 (白水社) ¥800
フランス語演習Ⅱ	中村	Ⅰ	同上
フランス語演習Ⅲ	中川	Ⅰ	中川・Silberschlag 著「こんにちはカロリーヌ —新装版—」(駿河台出版社) ¥950
フランス語演習Ⅳ	シャントル滝野	Ⅰ	テキスト等については、最初の授業のときに指示する。
フランス語演習Ⅴ	シャントル滝野	Ⅰ	同上
仏会話演習Ⅰ	シャントル滝野	Ⅱ	ビデオ・テープ(作品名は未定)に基づいて、会話練習をおこなう。
仏会話演習Ⅱ	シャントル滝野	Ⅲ・Ⅳ	Le Clezio: Le procès-verbal テキスト(Folio)は研究室で販売。
仏文学演習Ⅰ	中川	Ⅱ	モーロア「現代世界における作家の役割」 (白水社) ¥550
仏文学演習Ⅱ	中村	Ⅲ・Ⅳ	Michel Tournier: Vendredi (Gallimard) テキストは研究室で販売。
仏文学演習Ⅴ	石川	Ⅲ・Ⅳ	スタンダール「イタリア年代記」の講読と研究。テキスト(Garnier-Flammarion, 約¥1,000)は研究室で販売。
仏作文演習	シャントル滝野	Ⅲ・Ⅳ	テキストはその都度コピーして教室で配布する。

科 目	教 官	学 年	内 容
仏文学講義演習	シャント タル滝野	Ⅱ	Alain Robbe-Grillet: Le rendez-vous. (研究室で販売)
仏語学講義演習	小野	Ⅱ	小林路易「中級仏作文」白水社 1,600
仏文学特講Ⅰ	中川	Ⅲ・Ⅳ	Marivaux: La double inconstance (テキストは研究室で用意する)
仏文学史	加納	Ⅱ	「フランス文学史」(白水社)を使ってフランス文学の歩みを概観する。平行して主要なテキスト(コピー)を読む。
仏語学概論	木下	Ⅲ・Ⅳ	昨年度の文法史と音声学・音韻論・形態論につづいて、語彙と構文法のさまざまな現象からフランス語文法全体を考えなおしてみる。参考書はいずれ指示。
フランス事情Ⅰ・Ⅱ	石川	Ⅱ	フランス史を概観する。テキストは Jean Mathieux: Histoire de France (白水社, 1,100)
フランス文明Ⅰ・Ⅱ	塩川	Ⅲ・Ⅳ	17世紀フランスの宗教的人間観をパスカルの作品の講読を通じて探る。テキストは教室で指示する。

科 目	教 官	学 年	内 容
教育研究入門	教育学 コース 全教官	Ⅰ	教育学コースの各教官が、それぞれの専門領域の紹介を通して教育研究の手引きを行なう。
教育哲学概論	上野	Ⅰ	人間は教育によって人間になるということ、学ぶ、教えるという観点から考える。テキスト J. デューイ『民主主義と教育』(上・下)(岩波文庫)
教育史学概論	中内	Ⅱ～Ⅳ 前	教育学が教育の諸科学となり、教科教育史、社会教育史、教育行政史、児童史などが発達しはじめた事実をふまえて、これらの諸教育史を体系化し、総合する教育史学の立場と方法、史料等を概説する。
教育史学概論	楠原	Ⅱ～Ⅳ 後	非ヨーロッパ世界、とりわけ第三世界における「教育」概念の歴史的展開の検討。教育史研究方法論の検討もあわせておこなう。
教育社会学概論	新井	Ⅱ～Ⅳ 前	現代の教育問題を社会的に分析するための理論的枠組について概説する。とくに人間の発達にかかわる問題を中心にする。
教育社会学概論	河野	Ⅱ～Ⅳ 後	前期の発達の社会学を受けて、学校の社会学、現代社会と教育について論究する。
教育行政学概論	森	Ⅱ～Ⅳ 前	現代的教育問題の検討を通じ、教育制度、行政の概説に及ぶ。 参考書: 森隆夫「現代の教育行政」協同出版
教育行政学概論	高倉	Ⅱ～Ⅳ 後	教育実践と教育行政の経済的基礎である教育財政にかんし、(1)教育財政制度、(2)教育費の負担区分、(3)教育資源の配分等の側面から考える。

科 目	教 官	学 年	内 容
教育方法学概論	宮 原	Ⅱ～Ⅳ	近代から現代までの教育方法（教授学）に関する主な学説を検討し、生成されてきた概念の意味と実態（実践）の変遷と展開を探求する。参考書：細谷俊夫「教育方法」（岩波全書）
社会教育学概論	小 川	Ⅱ～Ⅳ	社会教育論の系譜を通しての社会教育概念の検討，社会教育の形態・方法，外国の社会教育の紹介，などにより，社会教育研究の視点をあきらかにする。
博物館学概論	鷹 野	Ⅱ・Ⅲ	博物館の定義・目的・歴史・法規・事業学芸員の使命等について概説する。
教育哲学講義演習	上 野	Ⅲ・Ⅳ	教育の目的と価値の問題について。テキスト J. Dewey; Philosophy of Education (Problems of men)
教育史学講義演習	中 内	Ⅲ・Ⅳ	教育史学の方法論に関する文献，史料等を取りあげ，その講読をおこなう。
教育社会学講義演習	河 野	Ⅱ～Ⅳ 前	「現代教育の診断」 現代教育の諸問題を教育社会学的視点から分析し，検討する。分析のフレームに関連する基本文献の講読も行う。
教育社会学講義演習	高 橋	Ⅱ～Ⅳ	教育社会学の新しい方法論について考えてみたい。その有効性と限界について，基本的な文献を読みながら検討したい。「教育と社会変動」（東大出版会）を使用する。
教育行政学講義演習	森	Ⅱ～Ⅳ	教職の総合的研究，前期は基本文献講読後期は教職をめぐる諸問題のケーススタディと比較研究。関連講義として，下村講師の「教育学特講Ⅱ」を聴講しておくことが望ましい。

科 科	教 官	学 年	内 容
教育方法学講義演習	宮 原	Ⅲ・Ⅳ	日本や英米の今日の教育方法・内容を教科の「実践記録」に則して検討する。今年は国語科を中心に分析・討論を行なう。
教育課程講義演習	今 野	Ⅲ・Ⅳ	教育課程論の基礎概念と教育内容構成の理論と方法の研究。実践的課題を重視する。参考書：今野喜清「教育課程論」（第一法規出版）
社会教育学講義演習	小 川	Ⅲ・Ⅳ	社会教育の理論と実践にかんする問題を“小集団学習”の方法により検討する。本年度は，社会教育施設の問題をとりあげる。
教育学特殊講義Ⅰ	市 村	Ⅱ～Ⅳ 前	「アメリカ」の人間形成思想に，ピューリタニズムとプログレンヴィズムがどう関わってきたかを，歴史・哲学的に考察する。参考書『人間形成の近代思想』（教育学大全集2，第一法規）
教育学特殊講義Ⅱ	下 村	Ⅱ～Ⅳ 前	現代の学校教育の実態を，学校紛争の側面から具体的にとりあげ，法制面から検討を加える。テキスト使用の予定。
教育学特殊講義Ⅲ	田 中	Ⅱ～Ⅳ 後	言語教育政策の研究
教育学特殊講義Ⅳ	未 定		
社会教育行政論	藤 田	Ⅲ・Ⅳ 前	わが国の戦前における社会教育に関する権利意識の発展をあきらかにしながら，憲法・教育基本法の社会教育規定および社会教育法の変化の過程をのべる。福祉国家の成人教育行政についても紹介する。
博物館実習Ⅰ	鷹 野	Ⅳ 前	博物館ないしそれに相当する施設を見学し，種々の観点から評価する。1単位。具体的なことは，追って示す。

教育学科・心理学

科 目	教 官	学 年	内 容
博物館実習Ⅱ	鷹野	Ⅳ 前	博物館ないしそれに相当する施設での実務実習と、遺跡の発掘調査をおこなう。原則として夏休み中に実施する。2単位
数理解論	藤永	Ⅰ	心理学の学問的性格、歴史、方法、中心問題、その達成などについての基礎的概観を行う。
数理統計学講義演習	須賀	Ⅰ	記述統計学、及び推測統計学の概説と演習。マイクロ・コンピュータによるプログラミングの実習を兼ねる。
心理学講義演習Ⅰ	内田	Ⅰ	前期：D. A. ヘップ『行動学入門』〈三訂版〉：（紀伊国屋書店）、後期：T. G. R. パウワー『乳児の世界』（ミネルヴァ書房）を講読し討議を行なう。
実験心理学演習Ⅰ	須賀	Ⅱ	心理学実験の手法、及び実験結果の分析手法についてさまざまな角度から演習する。
精神測定学	内藤	Ⅱ	経験科学としての心理学の必要条件、測定方法、尺度構成、データ処理について解説する。データ処理については、確率統計全般及び多変量解析を含む。
心理学講義演習Ⅱ	内藤	Ⅱ	D. A. ヘップ『行動学入門』（紀伊国屋書店）をテキストとして、心理学のさまざまな論点についての討議を行なう（前期）。後期は、道徳性発達をテーマとして、内外の文献を講読、討議する。
教育心理学	内藤	Ⅱ・Ⅲ	教育心理学における中心的な問題を、特に道徳教育の心理学的基礎をテーマとして概説する。
人格心理学	春日	Ⅱ・Ⅲ	人格の発達、人間行動のメカニズム、行動の病理等について考える。なお本年は7月に2単位分の集中講義を行い前期にて終了する。

科 目	教 官	学 年	内 容
心理学概論	藤永	Ⅰ	心理学の学問的性格、歴史、方法、中心問題、その達成などについての基礎的概観を行う。
数理統計学講義演習	須賀	Ⅰ	記述統計学、及び推測統計学の概説と演習。マイクロ・コンピュータによるプログラミングの実習を兼ねる。
心理学講義演習Ⅰ	内田	Ⅰ	前期：D. A. ヘップ『行動学入門』〈三訂版〉：（紀伊国屋書店）、後期：T. G. R. パウワー『乳児の世界』（ミネルヴァ書房）を講読し討議を行なう。
実験心理学演習Ⅰ	須賀	Ⅱ	心理学実験の手法、及び実験結果の分析手法についてさまざまな角度から演習する。
精神測定学	内藤	Ⅱ	経験科学としての心理学の必要条件、測定方法、尺度構成、データ処理について解説する。データ処理については、確率統計全般及び多変量解析を含む。
心理学講義演習Ⅱ	内藤	Ⅱ	D. A. ヘップ『行動学入門』（紀伊国屋書店）をテキストとして、心理学のさまざまな論点についての討議を行なう（前期）。後期は、道徳性発達をテーマとして、内外の文献を講読、討議する。
教育心理学	内藤	Ⅱ・Ⅲ	教育心理学における中心的な問題を、特に道徳教育の心理学的基礎をテーマとして概説する。
人格心理学	春日	Ⅱ・Ⅲ	人格の発達、人間行動のメカニズム、行動の病理等について考える。なお本年は7月に2単位分の集中講義を行い前期にて終了する。

科 目	教 官	学 年	内 容
社会心理学	大日向	Ⅱ・Ⅲ	性役割に関する今日の諸問題について検討を行なう。特に女子における性役割獲得の問題を、母性発達という視点から講義し、適宜、文献の講読を行なう。
発達心理学	藤 永	Ⅱ・Ⅲ	現代発達心理学の学問的性格、現在の中心問題とその動向を具体的研究領域に即して概観する。参考書：藤永保「発達の心理学」（岩波新書）同「幼児の心理と教育」（フレーベル館）
学習心理学	須 賀	Ⅱ・Ⅲ	I. P. パヴロフ, B. F. スキナー, 梅津八三、その他の心理学説の紹介。
心理学講義演習Ⅲ	内 田	Ⅲ	J. B. Branstord: Human Cognition - Learning, Understanding and Remembering. Wadsworth Publishing Companyを講読し討議を行なう。
視聴覚教育概論	坂 元	Ⅲ・Ⅳ	視聴覚教育を含みつつ発展している教育工学の歴史、理論、方法を講述し、授業設計、授業分析、机上授業、マイクロティーチング、教材作成、教育テレビ番組制作の実習ならびに見学を行なう。
言語心理学	内 田	Ⅲ・Ⅳ	第1、人間の言語の特質と、それを獲得する前提条件は何か、第2、言語と思考や認知、言語と人格といった言語と他の諸機能との関連、第3、言語理解と生成の観点から言語心理学を講義する。
数理心理学	安 本	Ⅲ・Ⅳ	「計量心理学」と「数理心理学」とを区別することがある。「計量心理学」は、心理的事実を計量的に「記述」することをめざすのに対し、「数理心理学」は数学の助けをかりて、モデル構成を行う。本講義では「計量心理学」とをともにとりあつかう。因子分析法をはじめとする多変量解析等もとりあげる。

科 目	教 官	学 年	内 容
心理学特殊講義Ⅰ	春 日	Ⅳ 前	精神病理現象、治療モデル、心理療法等について考える。
心理学特殊講義Ⅱ	安 西	Ⅱ・Ⅲ 後	思考心理学、問題解決論の現状を解説し今後の課題を展望する。特に、思考を人間の全体像の中に捉えなおすを試みる。参考書：渡辺慧・渡辺どろてあ「時間と人間」中央公論社ほか。
心理学特殊講義Ⅲ	安 西	Ⅱ・Ⅲ 後	同 上

舞踊教育学科・舞踊教育学

科 目	教 官	学 年	内 容
舞 踊 原 論	松 本	Ⅲ	東西の舞踊文化について、史的・現象的に概説の後、文献の講読を通して、舞踊の構造および機能的特性を考察する。
舞 踊 教 育 学 概 論	松 本 片 岡	Ⅰ 後	舞踊教育の概念とそこに含まれる主要問題を、比較舞踊教育の観点から概説する。
舞 踊 学 特 講	片 岡	Ⅲ・Ⅳ 後	現代舞踊の展開の様相をさぐり（日本、アメリカ、ドイツ）、現代舞踊の思想と表現様式を考察する。
舞 踊 教 育 学 実 験 演 習	片 岡	Ⅲ・Ⅳ 前	舞踊の技術について実験法、調査法を中心に実習を行う。
舞 踊 教 育 学 実 験 演 習	松 本	Ⅲ・Ⅳ 後	舞踊構造とその成因の解析を行なう。（フィルム分析および言語解析）
舞 踊 教 育 学 実 習 Ⅰ A	片 岡	Ⅰ 前	運動とリズムの関連を明らかにする目的で、主として音と関連させながら実施する。
舞 踊 学 実 習 Ⅰ A	石 黒	Ⅰ 後	モダンダンステクニックⅠ。正しい身体の動かし方を理解し、その原理のトレーニングとダンスムーブメントへの展開を実践する。
舞 踊 学 実 習 Ⅱ A	石 黒	Ⅱ 前	モダンダンステクニックⅡ。運動の表現原理（クォーリティー、遠心性、求心性など）と動きのトレーニング。
舞 踊 学 実 習 Ⅱ B	松 本 片 岡 石 黒	Ⅱ 後	課題による実験的創作を通して舞踊の諸形式と個性に応じる教育開発を考える。
舞 踊 学 実 習 Ⅲ A	松 本	Ⅲ 前	舞踊教育方法の実習。舞踊の構造と要素化の問題を中心に実験演習をとおして創作学習の内容及び方法を解明する。

科 目	教 官	学 年	内 容
舞 踊 学 実 習 Ⅲ B	片 岡	Ⅲ 後	モダンダンス創作法Ⅱ。舞踊の美的形式について学習し、作品のまとめ方について研究する。
舞 踊 学 実 習 Ⅳ A	石 黒	Ⅳ 前	モダンダンステクニックⅢ。課題による実験的創作を通して創作場面における種々の問題点を討議し解決する。
舞 踊 学 実 習 Ⅳ B	石 黒 片 岡	Ⅳ 前	舞台上演法。舞台制作に関連する諸演出（音楽、美術、照明等）の研究から舞台での作品上演を行う。
舞 踊 学 特 別 実 習 Ⅰ A	片 岡	Ⅰ～Ⅳ 前	モダンダンステクニックの専門的トレーニング。（中級・上級）
舞 踊 学 特 別 実 習 Ⅱ B	横 井	Ⅰ～Ⅳ 前	舞踊創作実習を通じ、舞踊創作に関わる諸要素を体得することを目的とする。
舞 踊 学 特 別 実 習 Ⅱ A	未 定	Ⅰ～Ⅳ 後	
遊 戯 学 概 論	加 賀 石 黒	Ⅰ 前	遊戯に関する諸理論を心理学と舞踊の立場から論ずる。
遊 戯 学 実 験 演 習	石 黒	Ⅲ・Ⅳ 前	舞踊運動の表現的特質について、リズム・イメージ・美的形式の観点から実験をすすめる。
遊 戯 学 実 験 演 習	加 賀	Ⅲ・Ⅳ 後	身体活動の学習や制御に関して、心理学的接近法を中心に、実験と演習を行う。
運 動 美 学	石 黒	Ⅲ 後	バレエ・モダンダンスに関する文献を技法、振りつけ、演技などの観点から論ずる。
動 作 学 概 論	森 下	Ⅰ 前	ヒトの姿勢や動作の発達について解説する。

科 目	教 官	学 年	内 容
動作学実験	大 平	Ⅲ 前	人間の動作のメカニズム及び動作に伴う生体反応などを実験を通して理解させる。 参考書：運動生理学の基礎 Edington Edgerton 著（ベースボールマガジン社）
動作学実験	森 下	Ⅲ 後	身体活動や情動にともなう、身体諸反応について実験技術を実習し、科学的認識を深める。
解剖学	森 下	Ⅱ 前	人体の構造を、運動や発育との関連において述べる。
運動生理学	森 下	Ⅱ 後	人体の機能を、運動や体力との関連において述べる。
病理学	奥 野	Ⅰ～Ⅳ 前	体育教育の場で教師が直面する可能性の高い疾病について病態の成立と経過を述べあわせて第一次医療における疾病の管理方針を概説する。
学校保健・保健学	吉 田	Ⅱ～Ⅳ 後	学校環境衛生について、測定法及び調査法の実習を中心に講義する。なお公害など環境問題にも触れる。プリントを配付して講義する。
体育の原理 (管理も含む)	梅 本	Ⅱ	体育の実践的活動の基本的な原理と、体育活動に必要な諸条件整備のための営みとしての体育の経営・管理について概説する。テキスト：前川「体育原理」、宇土ほか「体育管理学入門」
体育史	成 田	Ⅱ・Ⅲ 前	古代から現代までの体育史の大筋を理解すると共に、体育史上の重要な問題、例えば学校体育の成立事情や女性体育登場等について討議し、体育史を学ぶことの意味について考える。
体育心理学	加 賀	Ⅰ～Ⅳ	体育心理学の諸分野について、運動技能の獲得をめぐる形で述べる。教科書：松田岩男著「体育心理学」（大修館書店）

科 目	教 官	学 年	内 容
体育社会学	衆 野	Ⅱ・Ⅲ 後	学校や社会における体育とスポーツの社会的諸問題を具体的にとりあげ、その社会的考え方や科学的研究法並びに社会的対応策などについて論述する。参考書：衆野豊他編「スポーツ人間学」（大修館）
舞踊伴奏法Ⅰ	外 山	Ⅰ	ピアノ及び各種楽器によるアンサンブル・シンセサイザーによる音づくり・舞踊伴奏のためのアレンジ、構成、多重録音などを実習する。
舞踊伴奏法Ⅱ	柳 沼	Ⅱ	動きのためのリズムと舞踊のための音楽、動きのための打楽器の奏法を通し「リズム」を考える。舞踊における音楽の機能をさぐる。
運動学実習ⅠA (陸上)	阿 保	Ⅰ～Ⅳ 前	学習者に陸上競技の特性をふれさせる一方法として、運動学及び教育学的原則をマネジメント・サイクル（計画、実行、反省）の手法を利用し、そして実習をおこなう。
運動学実習ⅡB (バスケット)	清 水	Ⅰ～Ⅳ 後	バスケットボールを指導する場合に最低限身につけなければならない技術・知識を習得する。特に個人技に重点をおく。教科書：笠原成元著「イラスト・バスケットボールの技術」（講談社）
運動学実習ⅢA (新体操)	石 崎	Ⅰ～Ⅳ 前	この講座は半年間の科目のために深くすすめることは出来ないが、身体運動を中心として徒手体操、手具体操を基礎から創作へと発展しておこないます。
運動学実習ⅢB (軽スポーツ)	輿 水	Ⅰ～Ⅴ 前	軽スポーツの意義と技術の段階的指導法について研究する。（本年度は硬式テニスを中心に）

舞踊教育学科・音楽教育学

科 目	教 官	学 年	内 容
運動学実習ⅣB (スキー)	片岡 颯	I~IV	スキーの文化的意義、技術構造、練習法、用具、装備、ワックスなどについて講義を行ない、さらにスキー場において滑走訓練を行う。
音楽学概説	大 宮	II	音楽の歴史や音楽の分類、音楽の機能、音楽の社会性、音楽の教育などについて講義を行う。
音楽理論	松 崎	II~IV	音楽の基礎知識として、音楽記号、音階、和声、リズムなどについて講義を行う。
対位法	佐 野	II~IV	対位法の基礎知識として、対位法の種類、対位法の技法などについて講義を行う。
音楽美学	大 宮	III・IV	音楽の美的価値、音楽の美的表現、音楽の美的教育などについて講義を行う。
音楽史特講Ⅱ	大 宮	I~III 前	「ベートーヴェン 交響曲第1-3番 様式研究」3曲のスコアを用意すること。
音楽美学特講Ⅱ	芦 川	II~IV 後	ドイツ語による音楽美学書講読演習。合わせて、美学上の諸問題を概説する。テキストは E. Hanslick; Vom Musikalischesch=Schönen その他を使用(研究室にて準備する)

科 目	教 官	学 年	内 容
西洋音楽史概説	芦川前 大宮(後)	I	D. J. Grout: A History of Western Music. (Norton, 3rd ed. 1980) 一括購入。第1-11章。文献研究、楽譜分析、要旨作製。音楽の基礎演習。参考楽譜「音楽史 グレゴリオ聖歌からバッハまで」(音楽之友社)
音楽学概説	大 宮	II	Jan LaRue: Guidelines for Style Analysis. (Norton, 1970) 一括購入。楽曲の様式研究の方法論演習。
音楽理論	松 崎	II~IV	バロック期からロマン派までのピアノ曲を対象として、和声分析をおこなう。西洋音楽関係の卒業論文を予定する者は2年次(今年度は3年以上を含む)に履修すること。今年度は2単位。
対位法	佐 野	II~IV	バッハの作品を中心に、対位法作品の分析をおこなう。作品はそのつど指示する。なるべく多くの曲例にあたり、多様な手法を経験できるようにする。2年以上、今年度に対位法分析を履修すること。
音楽美学	大 宮	III・IV	音楽学ゼミナール。モーツァルトのイタリア期の交響曲、およびサンマルティニの交響曲の様式比較研究。 ワーク・ショップ・システム。筆写譜よりスコア作製。
音楽史特講Ⅱ	大 宮	I~III 前	「ベートーヴェン 交響曲第1-3番 様式研究」3曲のスコアを用意すること。
音楽美学特講Ⅱ	芦 川	II~IV 後	ドイツ語による音楽美学書講読演習。合わせて、美学上の諸問題を概説する。テキストは E. Hanslick; Vom Musikalischesch=Schönen その他を使用(研究室にて準備する)

科 目	教 官	学 年	内 容
音楽教育学概説	徳丸	Ⅱ	人間の音楽性の問題。前期は音楽テストとそれで測りうる音楽性の比較研究。後期は、研究法の概観と音楽行動の社会学的側面を中心に扱う。
民族音楽理論	徳丸	Ⅲ・Ⅳ	民族音楽学の歴史の概観と最近の傾向の整理。テキストは、Hornbostel, Merriam など、その都度指示する。
民族音楽学特講Ⅱ	八田	Ⅱ・Ⅲ Ⅳ 前	地歌・箏曲の実習を通して、日本音楽の特性を学ぶ。テキスト、楽譜はその都度指示する。
東洋音楽史	八田	Ⅱ・Ⅲ Ⅳ 後	同上
ピアノⅠ・講義演習	遠藤 井上	Ⅰ	基礎奏法の研究を主体としたピアノ音楽の研究
ピアノⅡ A	遠藤 (未定)	Ⅱ 前	ピアノⅠを修得したものを対象とし、より一層の技術的・音楽的向上をめざそうとするものである。
ピアノⅡ B	遠藤	Ⅱ 後	ピアノⅡ Aよりの継続研究で、ロマン派の作品を中心に実習する。
ピアノⅢ A B	遠藤 井上	Ⅲ	古典から現代にいたる各様式のピアノ作品を、数多く研究させる。必修課題として、ベートーヴェン後期ピアノ・ソナタから一曲を課す。十分な基礎能力を有するものを対象とする。公開演奏を課す。
ピアノⅣ A B	遠藤	Ⅳ	音楽史上の各様式のピアノ作品を研究、発展させる。卒業演奏をおこなうこと。
器楽演奏学特講Ⅲ	遠藤	Ⅱ～Ⅳ	ピアノⅠを修得した者を対象とした基礎ピアノ、実習研究

科 目	教 官	学 年	内 容
声楽Ⅰ・講義演習	林	Ⅰ	声楽基礎、呼吸法、歌唱法講義。演習（コンコーネ、簡単なイタリア・ドイツ・日本歌曲）
声 楽 Ⅱ A	林	Ⅱ 前	ベルカント唱法、イタリア歌曲の研究。
声 楽 Ⅱ B	林	Ⅱ 後	ドイツ・フランス歌曲の研究。
声 楽 Ⅲ A B	林	Ⅲ	歌曲、アリア、レチタティーヴォの研究。公開演奏を課す。
声 楽 Ⅳ A B	林	Ⅳ	古典、ロマン派声楽作品の研究、および演奏法の研究。公開演奏を課す。
声楽演奏学特講Ⅲ	長谷川	Ⅲ・Ⅳ	ドイツリートの研究及び演奏法をテーマとするゼミナール。
音楽アンサンブル研究Ⅱ	平尾	Ⅰ～Ⅳ	演技をとまなうオペラアンサンブルのゼミナール。
声楽作品研究Ⅱ	三林	Ⅱ～Ⅳ	声楽アンサンブル作品、およびフランス声楽作品をテーマとするゼミナール。
ソルフェージュ	小池	Ⅰ	古典音楽における基本的原理の理解と、それに基づく基礎訓練。
合唱Ⅰ～Ⅳ	渡辺	Ⅰ～Ⅳ	ルネッサンス、バロック、クラシック、ロマン派合唱曲の研究。アンサンブル基礎実習を含む。
合奏Ⅰ～Ⅳ	高久	Ⅰ～Ⅳ	ヴァイオリンとヴィオラの奏法及びアンサンブルを実習する。既習者と未習者の2グループで隔週、2時間継続。既習者は、チェロでの受講も可能。（各クラス通年1単位）

科 目	教 官	学 年	学 内 容
和 声 理 論	山 内	I	ヨーロッパ音楽の「機能と声」の理論と実際の作品における分析上の諸問題について。テキスト：外崎・島岡著「和声の原理と実習」（音楽之友社）
指 揮 法 I	中 野	III	腕の動き、拍子、速度等指揮の基礎技術を学習。ついで、オペラの Aria, アンサンブルを互いに演奏、指揮することにより、解釈と表現、訳詩、伴奏法などの諸問題を考察、実習する。

文教育学部・共通科目

科 目	教 官	学 年	学 内 容
法 学 特 講 II (哲学科・社会哲学 特殊講義 V)	広 渡	II~IV	できるだけ広い範囲でテーマをとりあげ、日本と西ドイツを比較しながら、両国の「法文化」のちがいをさぐってみたい。
社会 学 特 講 I (哲学科・社会調査)	園 田	II~IV	講義形式により、社会調査の意味と意義、社会調査の計画と過程、データ収集の技法等について概括的に説明し、これらと並行して現地調査の機会も用意したい。テキスト：福武直『社会調査』岩波全書
社会 学 特 講 II (哲学科・社会哲学 特殊講義 IV)	小 林	II~IV	社会福祉の基本的枠組を検討し、現代社会における福祉の意味を考える。
経 済 学 特 講 I (哲学科・経済史)	関 口	II~IV 前	欧米近代産業社会の形成・発展を世界史の流れのなかで考察し、その人間的基礎、後進諸国への影響にも論及する。参考書：大塚久雄「西洋経済史」（筑摩書房）、石井・関口「世界市場と幕末開港」（東大出版会）
経 済 学 特 講 I (哲学科・経済史)	橋 本	II~IV 後	なぜ日本経済は急速に成長したのかということについて理解を深めることを目的にして、日本における資本主義の発達史を概説する。教科書は授業で指示するが予備的知識はなくともよい。
経 済 学 特 講 II (哲学科・経済理論)	柴 垣	II~IV 前	昨年につづきマルクス『資本論』を読む。今年は第1部第4篇「相対的剰余価値の生産」から。大月書店国民文庫版の第1、2分冊をテキストとする。できれば第3篇まで読んでおくこと。
経 済 学 特 講 II (哲学科・経済理論)	横 倉	II~IV 後	近代経済学の基礎理論を、市場機構の機能と限界を中心に講義するとともに、ミクロおよびマクロの経済政策についても触れる。
政 治 学 特 講 (哲学科・政治理論)	藤 井	III・IV	近・現代の日中関係を中心とする東アジアの国際政治。

科 目	教 官	学 年	内 容
ギリシア語初級	柴田	I~IV	文法・語いの基本を修得するとともに、ギリシア古典の文例に接する。教科書として、Chase and Phillips, Introduction to Greek, Harvard UPを用いる。
ラテン語上級	柴田	II~IV	初級文法の学習をへた学生を対象とするが、文法の復習から出発し、文献学的な思想の把握をめざす。講読するテキストは教室で相談する。例えば、アウグスチヌス、ポエチウスなど。
言語学概論	寺津	III・IV	G. Miller (1981) Language and Speech 及び、N. Chomsky (1972) Language and Mind を使用し、言語の基本である音と意味について基本的概念を考察する。
独文学演習	杉本	III・IV	Adalbert Stifter: Brigitta の講読。テキストは研究室で用意する。
仏文学演習	石川	III・IV	スタンダール「イタリア年代記」講読。テキスト(約1,000円)は仏文研究室で販売。
特別外国語 (イタリア語)	河島	I~IV	イタリア語の初歩。教科書は最初の授業で指示。

科 目	教 官	学 年	内 容
哲学演習 I	熊谷	I・II	シェーラーの Der Formalismus in der Ethik und die materiale Wertethik をテキストとして、特に価値及び価値意識の問題を考える。
哲学演習 II	土屋	I・II	ヴィトゲンシュタインは、「私的言語」はありえないと主張した。その主張の意味を探るために、さまざまな解釈を研究する。主なテキスト: S. A. Kripke, Wittgenstein on Rules and Private Language.
哲学特論 II	熊谷 後	I・II	「言語について」一特に現象学派と言語分析学派の人々の言語論を取上げ、そこに伏在する諸問題を論ずる。(後期のみ)。
哲学演習 III	伊藤	I・II	デカルトの思想をまず概説し、『形而上学省察』の後半を精読する。仏文のテキストを中心にラテン本文を参照しつつ読むが、英訳による参加も歓迎する。テキスト: Descartes, Méditation métaphysique. (Bibliothèque des Textes philosophiques) J. Vrin.
哲学特論 I	吉田	I・II	言語が表現しようとしているものと言語との関係を考えることを中心にして哲学の諸問題について論ずる。
哲学特論 II	藤本 前	I・II	「人間とは何か」を哲学的に考え直す試み。人間の生・性・死、運命、言語、論理、倫理などが話題になる。教科書は用いないが、参考文献はそのつど紹介する。
倫理学演習 I	高島	I・II	日本中世倫理思想の諸問題。
倫理学演習 II	尾田	I・II	カント倫理学方法論研究。
倫理学特論 I	高木	I・II	現代日本の宗教現象について考察する。諸理論をふまえて、歴史的宗教集団の機能について討議する。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
倫 理 学 特 論 II	高 島	I・II	日本近世倫理思想の諸問題。
美 学 演 習 I	坂 本	I・II	フランス語の原書講読。テキスト未定。
美 学 特 論 I	坂 本	I・II	近世(16~19世紀)美術について、西欧美術の展開と中南米および東洋へのその波及。
美 学 特 論 II	林	I・II	仏教図像学および仏教美術の東伝、ことに昨年度にひきつゞき、中国、朝鮮よりわが上代美術への展開について講述する(カラスライド使用)。
美 学 特 論 III	長 塚	I・II	西洋中世美術史。壁画を中心に、キリスト教図像学、中世絵画様式について述べる。扱う範囲は、カパドキア(トルコ)、ラコンア(ギリシア)、ウンブリア(イタリア)を主とする。
美 学 特 論 IV	青 柳	I・II	ギリシア・ローマ美術と周辺諸美術の関係を中心に、両者の造形上の特質と相互的影響の在り方を考察する。
美 学 特 論 V	戸 田	I・II	中国絵画史上の代表作・問題作を各時間ごとに一点づつとりあげ、様々な角度からこれを分析し、全体としては絵画史の大きな流れが分るようにつとめる。
社 会 哲 学 演 習	宮 島	I・II	現代フランスの社会学者Alain Touraineの論文(仏語、コピー配布)を読みながら、現代社会とは何かを考えてみたい。
社 会 哲 学 特 論	宮 島	I・II	宗教社会学におけるデュルケムとヴェーバー。講義と講読を半々で行なう予定。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
日 本 史 学 特 論 I	五 味	I・II	鎌倉期諸史料の読解
日 本 史 学 特 論 II	未 定	I・II	
日 本 史 学 演 習 I	青 木	I・II	日本古代の文献(未定)を輪講。
日 本 史 学 演 習 II	大 口	I・II	「政談」の講読
東 洋 史 学 特 論 I	岸 本	I・II	明清社会経済史上の諸問題
東 洋 史 学 演 習 I	佐 伯	I・II	1940年から1919年までの時期における社会経済史料に基づき、史料講読を中心に討論を行う。
西 洋 史 学 特 論 I	平野 孝	I・II	出席者の専攻に関係のあるアメリカ史の諸問題につき、最近の研究論文を読む。
西 洋 史 学 演 習 I	山 本	I・II	近代ヨーロッパ史の諸問題

人文科学研究科・地理学専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
人文地理学特論Ⅰ	井 内	I・II 前	居住空間変貌に関する文献研究。
人文地理学特論Ⅲ	石 井	I・II 前	ドイツにおける農業地理学の動向、特に社会地理学的視点の導入状況を紹介し、併せて西ドイツ農業・農村の構造変化、都市・農村の空間整備政策の概説を行う。 参考書：「社会地理学」（古今書院）
人文地理学特論Ⅳ	未 定	I・II 後	
人文地理学演習Ⅰ	井 内	I・II 後	学生の専攻主題の共同研究
野 外 調 査 Ⅰ	井 内	I・II	近郊農村地帯で都市化の実態調査を行なう。
自然地理学特論Ⅰ	浅 海	I 前	第四紀の地形発達・気候変化・土壌生成の関連についての諸問題。
自然地理学特論Ⅲ	三 上	I・II 前	気候学の応用分野に関する講義と文献講読。
自然地理学特論Ⅳ	未 定	I・II 後	
自然地理学演習Ⅰ	浅 海	I 後	学生の修論テーマに即して、自然地理学の研究の方法論を検討。
自然地理学演習Ⅱ	三 上	I・II 後	修論に即した自然地理学研究の方法に関して、文献紹介・現地調査報告を行なう。
野 外 調 査 Ⅱ	浅 海 三 上	I・II	自然地理学の分野における野外調査の方法の検討と実習。
地 誌 学 特 論 Ⅱ	式	I・II 前	日本及び外国の具体的地域をとりあげ、その環境条件、地域性に関する調査例を紹介し解説する。

科 目	教 官	学 年	内 容
地 誌 学 特 論 Ⅲ	内 藤	I・II 前	地域労働市場の形成と構造からみた経済地誌の考察。事例の分析と今後の展望を含む。
地 誌 学 特 論 Ⅳ	未 定	I・II 後	
地 誌 学 演 習 Ⅰ	式	I・II 後	地誌研究を目的とした地域のとらえ方、調査、研究の手順と方法についての内外文献の紹介、講読など。
地 誌 学 演 習 Ⅱ	内 藤	I・II 後	経済地誌に関する文献の輪読。
野 外 調 査 Ⅲ	式 内 藤	I・II	自然地誌、人文地誌の編成について、資料の収集方法、分析方法などを实地に即して行なう。

人文科学研究科・日本文学専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
中古文学特論	犬 養	I・II	「玄玄集」を中心に拾遺期の文学の動向を考えてゆきたい。
中古文学演習	平 野	I・II	中古私家集を扱う。
中世文学特論	三 木	I・II	中世文学を特徴付ける主題・素材について考察する。
近世文学特論	梅 谷	I・II	学問の合理性と客観性について、近世の学者はどのように考えていたか、文献批判における代表的な業績をとりあげて、検討してみたい。
近代文学演習	浅 井	I・II	作品分析を通じて作品論上の問題点を考える。
国語学特論	白 藤	I・II	「遊仙窟」の古訓について考察する。
国語学演習	市 川	I・II	類義語の考察。

人文科学研究科・中国文学科専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
中国文学特論 I	丸 山	I・II	「中国現代文学研究」 前期は作品講読を中心に、関連資料調査方法等の演習を行う。後期は「文壇史的文学史」を1930年代について試みる。教科書・参考書は随時指示する。
中国文学特論 III	近 藤	I・II	「礼記正義」 中国文学研究の基礎学力として必須と考える注疏が読めるようにするための訓練として行うが、とくに天文曆算学および歳時記として特色ある月令篇から始める。覆毛本のコピー使用。
中国文学演習 I	佐 藤	I・II	「唐代詩文研究」 詩作品の講読に中心をおくが、詩人の伝記研究、別集・評注の成立、詩論、作詩の背景等にも関心をもちつつ、関係の散文をも読む。対象の詩人は、授業時に指示する。
中国語学特論 II	頼	I・II	「清朝小学史」 顧炎武・江永以後、章炳麟・黄侃に至る音韻学史を取り上げて論ずる。
中国語学演習	中 山	I・II	「現代中国語表現の研究」 前年度にひきつづき、現代中国語表現の多様性を老舎の作品を素材にして研究する。

人文科学研究科・英文学専攻

科目	教官	学年	内容
英文学演習Ⅰ	外山	I・II	文学研究法と批評に関する論文を読む。
英文学演習Ⅱ	野島	I・II	Shakespeare の Sonnets を読む。(テキストは英文研究室で購入のこと)
英文学特論Ⅰ	河村	I・II	ルネサンスの恋愛詩。もちろんイギリスが中心だが、イタリア、フランスなど各国に多少またがる(原詩と英訳を合わせて使う。)テキストはゼロックスを使う。
英文学特論Ⅱ	工藤	I・II	前年度にひき続き、George Eliot の文学と思想について考察する。新聴講者の場合にも支障のないよう措置する。 [テキスト] George Eliot: <u>Romola</u> (Penguin)
米文学演習Ⅰ	酒本	I・II	昨年度に引続き、Melville, <u>Moby-Dick</u> を読む。第17章より始めるので、そこまではあらかじめ読んでおくこと。テキストは各自で購入。Norton's Critical Edition が望ましい。
米文学特論Ⅰ	富山	I・II	1960年代以降のアメリカ小説を読むが、テキストについては第1回目に指示する。
英作文指導	宮川 ルイス	I	英語論文作成の指導。特別研究の一部として成績は修士論文判定の際参考とされる。

人文科学研究科・教育学専攻

科目	教官	学年	内容
教育学特論	上野	I・II	aesthetic なシンボル認識と人間形成について。テキスト: E. Cassirer; An Essay on Man.
教育史特論	中内	I・II	産育と教育に関する史的人口動態誌関係の文献をとりあげ、社会史としての教育史の可能性について検討する。
教育方法学特論	宮原	I・II	授業研究の方法論を模策する。
教育社会学特論	児島	I・II	学校の文化的側面(学校文化、教師文化、生徒文化、地域文化など)、学校の組織的側面(フォーマルな構造、インフォーマルな構造、リーダー行動など)を通して学校の変革過程をみていく。
教育行政演習	森	I・II	生涯教育論。各都道府県の生涯教育施策を欧米のそれと比較しながら検討する。比較方法上重要な「比較点」については人間主義的視点に至ったものとする。
社会教育学演習	小川	I・II	イギリス成人教育史の基本文献の講読。本年度は、1919年報告の検討を行なう。
発達心理学特論	藤永	I・II	Lamb, M. E. & Sherrod, L. R. (Eds); Infant Social Cognition, 1981, LEA をテキストとして、社会的発達の諸問題につき考察する。
発達心理学演習	春日 前	I・II	人格と情動の発達、行動病理のメカニズム、精神病理等の諸問題について、文献講読と討議を中心に考える。
発達心理学演習	永野	I・II	認知と動機づけについて文献講読と討論を中心に考える。
教育心理学特論	吉田	I・II	「学ぶ」と「教える」という現象を考究する。日本の授業実践およびそこから生まれた洞察に、現象学的心理学の視点からアプローチする。

科 目	教 官	学 年	内 容
教育心理学演習	須賀	I・II	種特異性と個体特異性の諸問題について。
視聴覚教育特論	内田	I・II	U. Neisser: Memory Observed Remembering in Natural Contexts. Freeman. を糸口に、日本文脈で生ずる人間の情報処理過程についての研究方法論を検討する。
			George Eliot: Romances (Penguin)
			Norton's Criticism
			川 小
			永 嘉
			加 賀
			嘉 戸
			森 下

科 目	教 官	学 年	内 容
舞踊教育学特論	松本	I・II	文化と教育の両義性から舞踊を考察し、関連分野の文献と対照して、芸術と芸術教育としての舞踊について論じる。
舞踊方法論実験実習	松本	I・II 前	舞踊の鑑賞と舞踊構造要素の相関関係を分析し、鑑賞価をとおして作品形式を類別する。
舞踊教育学演習	片岡	I・II 後	舞踊教育学に関する最近の論文を講読し舞踊教育学の諸問題を討議する。
舞踊美学特論	三隅	I・II 前	全国各地に伝承される民俗芸能を素材にしながら我が国における舞踊技法の歴史的展開とその特質を考察する。
舞踊方法論特論	未定	I・II 後	
遊戯学実験実習	石黒	I・II 前	舞踊のリズム、間についてのフィルム分析(ナック、スポーティラス)を行う。
遊戯学実験実習	輿水	I・II 後	遊戯・スポーツ等に関する諸問題についての実験・実習を行なう。
遊戯学特論	加賀	I・II	体育科教育の諸問題を主として心理学的観点からとりあげ、文献の講読と討議を行う。
遊戯方法論演習	嘉戸	I・II 前	現代社会特徴とプレイ、スポーツの意味・機能について内外の文献・資料にもとづいて考えていく。
動作学特論	森下	I・II	ヒトの動作の特性とその変容について文献の講読と討議を中心にすすめる。

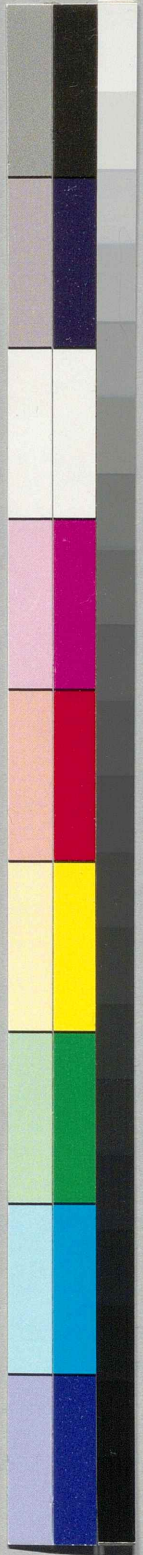
科 目	教 官	学 年	内 容
音楽美学特論	大 宮		様式分析に関する文献(数種の論文)講読。Jan LaRue: "Harmonic Rhythm in the Beethoven Symphonies" in 'Music Review' 18, 1957. その他。1年全員, および2年音楽学専攻者。
音楽理論演習Ⅰ	大 宮 徳 丸	I・II	文献探索の技術, 音や映像の利用など, 論文作製に必要な技術の訓練。
民族音楽学実験実習	徳 丸	I・II	音楽記号学研究。
舞踊音楽論実験実習	近 藤	I・II	20世紀の音楽を中心にした音楽理論・音楽観の分析的研究。
演奏学実験実習	遠 藤	I・II	ピアノ声楽における様式の比較研究, および演奏学実習。
演奏学特論	林	I・II	19世紀の声楽作品の研究と演奏学実習。
音楽理論演習Ⅱ	諸 井	I・II	ベートーヴェンの後期ピアノソナタを中心とした, 形式の変形と複合の研究。 (序論として, 前期に数回, 中期のソナタをとりあげる。演奏実験をおこなう。)

科 目	教 官	学 年	内 容
独文学特論	杉 本	I・II	Adalbert Stifter: Brigitta を講読し, 解釈上の問題点について考察する。テキストは研究室で用意する。
仏文学特論	中 川	I・II	Marivaux: La double inconstance (テキストは研究室で用意する)
仏文学特論	石 川	I・II	Stendhal: Chroniques italiennes の講読と研究, テキストは仏文研究室で販売(約 ¥ 1,000)

目録表・授業科目表

科目名	学年	単位	備考	科目名
和洋音楽の基礎	1・2	2		和洋音楽の基礎
音楽理論演習I	1・2	2		音楽理論演習I
音楽理論演習II	1・2	2		音楽理論演習II
音楽学概論	1・2	2		音楽学概論
音楽学実習	1・2	2		音楽学実習
音楽学実習II	1・2	2		音楽学実習II
音楽学実習III	1・2	2		音楽学実習III
音楽学実習IV	1・2	2		音楽学実習IV
音楽学実習V	1・2	2		音楽学実習V
音楽学実習VI	1・2	2		音楽学実習VI
音楽学実習VII	1・2	2		音楽学実習VII
音楽学実習VIII	1・2	2		音楽学実習VIII
音楽学実習IX	1・2	2		音楽学実習IX
音楽学実習X	1・2	2		音楽学実習X
音楽学実習XI	1・2	2		音楽学実習XI
音楽学実習XII	1・2	2		音楽学実習XII
音楽学実習XIII	1・2	2		音楽学実習XIII
音楽学実習XIV	1・2	2		音楽学実習XIV
音楽学実習XV	1・2	2		音楽学実習XV
音楽学実習XVI	1・2	2		音楽学実習XVI
音楽学実習XVII	1・2	2		音楽学実習XVII
音楽学実習XVIII	1・2	2		音楽学実習XVIII
音楽学実習XIX	1・2	2		音楽学実習XIX
音楽学実習XX	1・2	2		音楽学実習XX

理 学 部



理学部・共通科目

科 目	教 官	学 年	内 容
初等集合論	本田	I 前	集合論の初歩。とくに濃度と順序数の概念の意義に重点をおく。 教科書：赤根也「集合論入門」(培風館)
初等解析学 I	関本	I 後	一般教育科目・数学(理) I の続き。位相空間論の初歩と多変数関数の微分を解説する。 教科書：笠原皓司「微分積分学」(サイエンス社)
初等解析学 II	竹内	II 前	初等解析学 I に引き続いて、重積分、線積分、面積分。 教科書：笠原皓司「微分積分学」(サイエンス社)
初等線形代数学	立花	I 後	数学(理) II の続き。
初等代数学	伊関	I ~ IV 後	三角関数、複素数、多項式、その他。数学科学生は一年次、他は任意学年。
初等波動・熱学	橋爪	I・II 前	波動論、幾何光学、物理光学の基礎、熱力学概説
初等電磁気学	石黒	I・II 後	電磁気学の基礎 教科書：教養課程「物理学 II」(竹田他朝倉書店)
天 文 学	藤田	II 前	天文学の一般、特に太陽系及び恒星について。
地 球 物 理 学	高野	III 後	歴史地震・地震波動・地震のメカニズム・地震予知等、地震現象および地震学についての解説

*印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	内 容
気 象 学	窪田(正)	Ⅲ 前	大気組成、熱構造、放射、大気熱力学、降水の物理学、大気の力学の基礎を概説し、これらの知識に基いて、大気の歴史、大気大循環、気団と前線、各種じょう乱を説明する。 教科書：山本義一「新版気象学概論」(朝倉書店)
超 高 層 物 理 学	國 分	Ⅲ 前	オゾン層、電離層、オーロラの物理、磁気圏における荷電粒子の振舞、惑星間空間を吹きぬける太陽風など、人工衛星の発達により明らかになった地球周辺の物理像を概説する。
電 子 計 算 機	有 山	Ⅲ 前	電子計算機のハードウェア、ソフトウェアについて概説する。
基 礎 量 子 化 学	細 矢	Ⅰ 前	化学の基礎としての波動力学的な考え方の入門。それを用いて原子、分子の構造や性質をどのように理解するかを講義する。
※基礎化学熱力学	丸 山	Ⅰ 後	熱力学の基礎とその化学への応用の入門的講義。◎物理(理)Ⅰ、初等波動・熱学、化学(理)Ⅰ、基礎量子化学。
微 視 生 物 学	芦 原	Ⅱ 前	生化学、分子生物学の基礎事項の解説。
巨 視 生 物 学	石 和	Ⅰ・Ⅱ 後	遺伝学入門。はじめて遺伝学を学ぼうとする人々のために。 教科書：木村他訳 クロー遺伝学概説(培風館)
物 理 学 基 礎 実 験	富 永 大 島	Ⅰ 後 [化学]	基礎的な物理実験の実習。
物 理 学 基 礎 実 験	池 田 窪田(健)	Ⅰ 後 [生物]	基礎的な物理実験の実習。

科 目	教 官	学 年	内 容
化学基礎実験	前 田	Ⅰ(物) Ⅰ(生)	基礎的な化学実験の実習。
生物学基礎実験	山 下 能 村	Ⅰ(物) Ⅰ(化)	臨海実験所において植物、動物の基本的な野外採集、顕微鏡観察などを行う。海産無脊椎動物の発生過程の観察及び実験。(物理学科は7月、化学科は9月に行う。)
地学基礎実験	根 本 浅 海	Ⅰ(生) Ⅱ(物 化)	気象通報資料(ラジオによる)をもとにする天気図の作成、天気図の見方、天気図の予想に関する実習・施設の見学。地質地形調査の実習と実験……夏季休暇中に郷里または旅行先(国内)で各自の選定した一定範囲の地域において、実地観察と岩石採集を行い、次のレポートを作成する。 (1) 採集岩石(3種以上)の種類の鑑定 (2) 地形の投射断面図の作成 (3) 地形計測作業(起伏量、谷密度等) (4) 推定地質構造断面図

数 学 科

科 目	教 官	学 年	内 容
線形代数	高村	I	線形空間, 行列, 行列式, 固有値など。 教科書: 齊藤正彦「線形代数入門」 (東京大学出版会)
線形代数演習	高村 榎本	I	同上の演習。
微積分学 I	渡辺	I	極限, 連続関数, 一変数の微分と積分。 教科書: 笠原皓司「微積分学」(サイ エンス社)
微積分学 I 演習	渡辺 竹尾	I	同上の演習。
微積分学 II	松田	II	多変数の微積分学とその応用。 教科書: 難波完爾, 三宅克哉「微積分 学」(実科出版)
微積分学 II 演習	松田 前田	II	同上の演習。
代数学序論	小山	II	群論の初歩。置換群, 同型定理, 有限群 論の諸定理など。
代数学序論演習	小山	II	同上の演習。(講義と演習を隔週で通年)
幾何学序論	立花	II	ベクトル解析とテンソル代数。ユークリッ ド空間上のベクトル場と微分形式。
幾何学序論演習	立花	II	同上の演習。(講義と演習を隔週通年)
位相空間論	沢島	II	位相空間論入門(位相, コンパクト, 連 結, 距離空間など)。 教科書: 亀谷俊司著「集合と位相」(朝 倉書店), 参考書: 弥永昌吉, 弥永健一 著「集合と位相 II」岩波講座・基礎数学
位相空間論演習	沢島 竹尾	II	同上の演習

*印科目の履修は, 講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい

科 目	教 官	学 年	内 容
関数論 I	渡辺	III 前	複素関数論の基礎。 教科書: 吉田洋一「関数論」(第 2 版) (岩波全書 141)
数学講究	伊 関 小山 沢島 渡辺 藤原 立花 小川 松田 竹内 高村	IV	各研究室に分れて, それぞれ特定の題目 について(原則として)外国語文献の講読 を行い, 知識を深めるとともに数学にお ける研究の方法を修得する。
微分方程式論 I	松田	III 前	微分方程式の初歩。簡単な求積法, 線形 微分方程式の解法, 存在定理など。
微分方程式論 II	松田	III 後	微分方程式論 I の続き。
代数学 I	林田	III 前	抽象代数学概観, 体論, ガロア理論, 整 数論。
代数学 II	林田	III 後	代数学 I に続いて, 可換環, 非可換環入 門。
幾何学 I	小川	III 前	微分形式を主に用いた曲線と曲面の微分 幾何学。
積分論 I	竹内	III 前	ルベーグ測度とその積分論。 教科書: 岸 正倫「ルベーグ積分」(サ イエンス社)
※関数解析	沢島	III 前	Banach 空間, Hilbert 空間の基本的な 性質及びその上の線形作用素の基礎理論 など, 関数解析の入門。 参考書: 黒田成俊著「関数解析」(共立 出版) ◎線形代数・位相空間論

科 目	教 官	学 年	内 容
関数論 I 演習	久保内	III 前	関数論 I の演習。
数学演習 III	久保内	III 後	代数学 I の演習。主としてガロアの理論。
関数論 II	大津賀	III 後	内容的には前期の関数論の終わった所につけて講義する。
積分論 II	竹内	III 後	積分論 I の続き。
幾何学 II	中村	III 前	位相幾何学の基礎的事項、例えばホモロジー理論、ホモトピー理論、ファイバーバンドルの理論等について解説する。特に教科書は指定しない。
確率論	竹内	III・IV 後	確率過程のやさしい入門。主として random walk や Markov chain について。
数理統計学	鍋谷	III・IV 前	確率、分布、推定、検定などを中心にして、数理統計学のやや理論的な面について講義する。
解析学統論 I	宮島	III・IV 後	Hilbert 空間上の作用素を主に、Operator Theory の初歩を扱う。
代数学統論 III	藤原	III・IV 後	超越数論の基礎より始め、現在進行中のトピックにも可能なら触れたい。
幾何学統論 III	小川	III・IV 後	幾何学 I の続き。多様体入門。

理学研究科・数学専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
解析学特論 I			
同 II			
同 III	宮島	I・II 前	Banach 束上の positive operator についてのいくつかの話題を扱う。
同 IV			
同 V			
同 VI			
同 VII			
同 VIII			
同 IX			
同 X			
同 XI			
同 XII			
同 XIII			
同 XIV			
同 XV			
同 XVI			
代数学特論 I	小山	I・II 後	アーベル群論の最近の話題について。
同 II			
同 III			

科 目	教 官	学 年	学 年 内 容	目 録
代数学特論 IV	久保内	前	代数幾何学の発展。I 代数幾何学	
同 V	久保内	後	代数学 I の発展。主としてガロア理論。	
同 VI	久保内	後	代数学 II の発展。主としてガロア理論。	
同 VII	久保内	後	代数学 III の発展。主としてガロア理論。	
同 VIII	久保内	後	代数学 IV の発展。主としてガロア理論。	
幾何学特論 I	藤原	I・II 前	多変数解析関数論。複素多様体, sheaf の cohomology, Stein 多様体。前年後期の解析的理論を知っていることは望ましいが、仮定しない。	
同 II	荻上	I・II 前	Lie 群論の初歩。Lie 群や Mal'tsev 群について。	
同 III	藤谷	II・IV 前	確率、分布、推定、検定などを中心とした、数理統計学や応用統計学について講義する。	
同 IV	藤谷	II・IV 前	確率、分布、推定、検定などを中心とした、数理統計学や応用統計学について講義する。	
同 V	宮尾	II・IV 後	Hilbert 空間上の作用素を主に、Operator Theory の初歩を扱う。	
同 VI	藤原	II・IV 後	代数幾何学の基礎より入り、現在進行中のトピックにも可能な限り触れたい。	
同 VII	藤原	II・IV 後	代数幾何学の基礎より入り、現在進行中のトピックにも可能な限り触れたい。	
同 VIII	小川	II・IV 後	幾何学 I の講義。多様体入門。	
応用数学特論 I				
同 II	高村	I・II 前	非線形双曲型発展方程式について講述する。	
同 III				
同 IV				

科 目	教 官	学 年	学 年 内 容	目 録
応用数学特論 V				
同 VI				
同 VII				
(同) VIII				
数学特論 I				
同 II				
同 III				
同 IV				
同 V				
数学講究	伊関 小山 沢島 渡辺 林田 藤原 立花 小松 竹内 高村	I・II		

物理学科

科目	教官	学年	内容
物理学 I	亀井	II 前	関数論の概要, Fourier 級数, Laplace 変換, 常微分方程式の解法。特殊関数。
物理学 II	亀井	II 後	同上の続き。
力学 I	伊藤敬	I 前	質点の力学 教科書: 原島鮮「力学」(裳華房)
力学 II	伊藤敬	I 後	質点系・剛体の力学 教科書: 原島鮮「力学」(裳華房)
力学 III	福田博	II 前	ラグランジュ, ハミルトンの力学理論 正準変換論を通じて力学より量子論への準備を行う。ここで変分学という新しい考え方を学ぶ。
電磁気学 I	池田	I 後	静電気, 定常電流。 教科書: 熊谷寛夫, 荒川泰二著「電磁気学」(朝倉書店)
電磁気学 II	池田	II 前	静磁気, 電気と磁気との関係, 電磁波の諸性質。
熱力学及び統計力学 I	橋爪	III 前	熱力学基本法則とその簡単な応用。
熱力学及び統計力学 II	柴田	III 後	平衡系の統計力学。非平衡統計力学序論
量子力学 I	柴田	II 後	シュレーディンガー方程式・固有値, 固有関数・一般原理・中心力場における運動・角運動量とスピン・摂動論。 教科書: 金沢秀夫著「量子力学」(朝倉書店)
量子力学 II	柴田	III 前	変分法・衝突の理論・輻射の理論・多体問題・ディラックの相対論的電子論。 教科書: 金沢秀夫著「量子力学」(朝倉書店)

※印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科目	教官	学年	内容
物理学実験 I	伊藤厚 森本	II	基本的な物理量の測定・装置の使用法・測定結果の処理法の修得ならびに実験を通しての物理的思考力の養成。
※物理学実験 II	田中 大島 鈴木	III	物理学実験 I の後を受けて, やや高度な基本的な物理実験を実習する。 ◎物理学実験 I, 物理実験学 I
物理学輪講	石黒	III 後	物理のテキストを学生が解説し, 討論する。
特別研究	伊藤敬 亀井 田中 池田 石黒 伊藤厚 富永 橋爪 柴田 根本 福田博	IV	理論専攻と実験専攻に分れ, 各研究室に所属して, それぞれ特定の題目について知識を深めるとともに, 物理学における研究のあり方を修得する。
物理学 III	品田	III 前	線形代数学の応用, 基準振動, 波動方程式
物理学 I 演習	亀井	II 前	物理学の講義に関する事項の演習
物理学 II 演習	亀井	II 後	同上
数値解析	竹沢	IV 前	大型計算機向き数値計算法の基礎を講述し, 各自のテーマによる実習を行う。
プログラミング言語と実習	橋爪	III 後	FORTRAN プログラム作法入門と実習。
連続体物理学	高見	III 前	弾性体や流体を連続体とみなして扱う力学の基本的な考え方と, それに関連させてベクトル解析やテンソル代数の意味を物理と数理の両面から学ぶ。

科 目	教 官	学 年	内 容
力学 I 演習	伊藤敬	I 前	ベクトル演算, 力学 I の演習 教科書: 安達忠次「ベクトルとテンソル」 (培風館)
力学 II 演習	伊藤敬	I 後	ベクトル解析, 力学 II の演習 教科書: 安達忠次「ベクトルとテンソル」 (培風館)
電磁気学 I 演習	伊藤厚	I 後	電磁気学 I の演習
電磁気学 II 演習	池田	II 前	電磁気学 II の演習
量子力学 III	品田	III 後	光の吸収放出散乱 散乱の量子論入門
量子力学 I 演習	柴田	II 後	「量子力学 I」の演習 教科書: 金沢・小出著「量子力学演習」 (朝倉書店)
量子力学 II 演習	柴田	III 前	「量子力学 II」の演習 教科書: 金沢・小出著「量子力学演習」 (朝倉書店)
流体物理学	高見	III 後	連続体の中でも特に多彩かつ重要な流体 の運動について, 「連続体物理学」で学 んだことを基礎にして, 映画フィルムな どを併用しながら, さらにくわしく調べ る。
原子物理学	伊藤厚	III 前	量子力学の初歩を基礎知識として, 主と して, 原子そのものに関連した物理現象 を実験事実との関連において述べ, 原子 の集団の性質を扱う物性論への橋渡しを する。
素粒子物理学	中村孔	IV 後	あまり大がかりな予備知識を必要としない 範囲で, 素粒子物理のトピックスを選 び解説する。

科 目	教 官	学 年	内 容
原子核物理学 I	小川	IV 前	原子核が関係したいろいろな現象, なら びにそれらを理解するための基本的考え 方についてわかり易く概説する。
物性物理学 I	富永	III 後	量子力学を基礎知識として, 固体物性の 基礎的事項を解説する。結晶構造, 逆格 子空間, 格子振動, 自由電子近似など。
物性物理学 II	富永	IV 前	前期に引き続き固体の示す多彩な性質や 現象を解説する。金属, 半導体, 誘電体 の物性, 強磁性, 超伝導など。
物理実験学 I	田中	II 後	物理的基礎量の測定法とデータ解析の方 法
物理実験学 II	田中	III 前	電子回路の基礎とその応用, 電氣的測定 法
物理学特別講義 I	中村孔	IV 前	相対論的な量子力学について述べ, でき れば, 場の量子論の入門的解説を行う。
物理学史	八木	IV 前	科学の流れを概観したのちに, 物理学の 歴史, とくに19~20世紀について事例研 究をセミナー形式で行う。 参考書: 広重徹編「科学史のすすめ」 (筑摩書房) 等。
原子核物理学 II	上坪	IV 後	

理学研究科・物理学専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
流体力学特論 I			
同 II	根本	I・II 後	大気中における乱流拡散
相 対 論 特 論			
数理物理学特論 I			
同 II			
計 測 特 論 I			
同 II			
同 III			
分子特論 I			
同 II	伊藤敬	I・II 前	
同 III	石黒	I・II 前	原子・分子の電子構造論の中からトピックスをえらんで講述する。
同 IV			
統計力学特論 I	柴田	I・II 前	物性基礎論
同 II	橋爪	I・II 後	非平衡統計力学の手法
同 III			
同 IV			
素粒子特論 I			

科 目	教 官	学 年	内 容
素粒子特論 II	福田博	I・II 後	素粒子 素粒子の高エネルギー散乱や、多体問題を量子力学的に解析するリップマン・シュビンガーの方法を中心に講義する。分散公式や量子力学における位相の物理的意味を明らかにする。
同 III			
同 IV			
原子核特論 I			
同 II			
同 III			
同 IV			
固体特論 I			
同 II			
同 III	伊藤厚	I・II 後	
同 IV	富永	I・II 前	誘電体論
同 V	池田	I・II 後	凝縮体の集団運動と相転移
磁性体特論 I	田中	I・II 前	
同 II			
同 III			
同 IV			

化 学 科

※印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	内 容
基本化学実験	細矢 福田 鷹野	I 前	化学の基礎となる実験 教科書：畑・渡辺「基礎有機化学実験」 (丸善), 荒木峻他「分析化学実験指針」 (東京化学同人)。
※ 物理化学 I	丸山	II	熱力学に基づいた相平衡, 相転移, 溶液論の初歩および統計熱力学の入門的講義。 ◎基礎化学熱力学, 基礎量子化学, 初等波動・熱学。
分析化学 I	中西	II 前	分析化学一般の基礎的事項 教科書：デイ・アンダーウッド「定量分析化学」(培風館)
※ 有機化学 I	塩田	II	総論(構造・反応の基礎), 各論(炭化水素, ハロゲン化合物, 窒素化合物) ◎化学(理) II
無機化学 I	曾根	II 後 III 前	元素の周期律・原子の構造と, 主要な元素・無機化合物の構造・性質との関係
生物化学 I	瀬野	II 後 III 前	生体物質の化学と代謝の前半: 糖質, アミノ酸およびタンパク質の化学と代謝, 酵素概説 参考書: 「スッティ生化学」瀬野・松本訳 (科学技術出版)
※ 構造化学	細矢	III 後	物理化学 II の後を受け, 化学結合・分子構造・反応機構・種々のスペクトル等の理論を主に分子軌道法によって説明する講義。◎基礎量子化学, 物理化学 II
無機化学実験	曾根 福田	I 後	簡単な無機化合物の合成と, それらの反応や性質の観察を, とくに重金属の化合物を中心として行う。
分析化学実験	藤枝 中西	II 前	主として無機物質を取扱う諸操作と基本的化学分析法

※印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	内 容
※ 物理化学実験	丸山 堀 鷹野	III 前	物理化学の基礎実験とそれを通して物理化学 I, II の講義の演習。 教科書: 鮫島実三郎「物理化学実験法」(裳華房)他にプリント。 ◎物理学基礎実験, 物理化学 I, II
有機化学実験	塩田 永野 石毛	II 後	合成の基本操作。定性分析 教科書: 畑・渡辺「基礎有機化学実験」(丸善)「フィーザー有機化学実験」原書 4 版 後藤俊夫訳(丸善)
生物化学実験	瀬野 松本 北垣	III 後	生体物質および酵素についての基礎的実験
化学演習	全教官	IV	外国文献の講読
特別研究	丸山 細矢 曾根 福田 塩田 永野 瀬野 松本 中西 藤枝 前田	IV	各研究室に所属して特定の題目について研究を行い, 化学研究の方法を総合的に修得する。
※ 分析化学 II	中西	II 後	定量分析及び簡単な機器分析 教科書: デイ・アンダーウッド「定量分析化学」(培風館) ◎分析化学 I
物理化学 II	小林	II 前	教科書 アトキンス 物理化学(下)(東京化学同人)

*印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
物 理 化 学 II	細 矢	II 後	一般物理化学のうち、量子力学を基礎とする原子構造と化学結合の講義。◎基礎量子化学、基礎化学熱力学、初等波動・熱学
※ 有 機 化 学 II	永 野	III	酸素、イオウを含む化合物および複素環式化合物の化学。◎有機化学 I
※ 無 機 化 学 II	福 田	III 後	無機化学 I の内容を補足し、さらに多くの実例について述べる。◎無機化学 I
生 物 化 学 II	松 本	III	生物物質（とくに脂質、核酸、含窒素化合物）の化学と代謝、代謝調節と免疫化学の概説。 教科書：スッチェン生物学（科学技術出版社）
高 分 子 化 学	荻 野	III 前	高分子物性を中心に、熱力学の復習をかねて話をする。
放 射 化 学	石 森	III 前	放射性壊変、核反応、核分裂など核種に関する基本を概説し、放射性核種の化学への応用を解説する。
機 器 分 析	藤 枝	III 前	化学計測の機器化、自動化の方法と、それに関連する基礎的事項。
錯 塩 化 学	中 原	III 後	錯体の化学についての入門的紹介からはじめて、配位子場理論を用いての理解と展望を概説する。
地 球 化 学	佐 藤	I 後	無機物質の地球化学概説。
応 用 化 学	永 松	III 後	化学工業の代表例の解説を通して、科学と技術の関連および（特許法などの法規制を含めて）社会・経済との関係を説明し、工業化社会の様相を述べることによって、現実の社会に出立する心構えについても述べたい。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
有 機 化 学 特 別 講 義	稲 本	III 前	置換反応、付加反応、脱離反応、転位反応、付加環化反応など、主な有機化学反応の起こる機構について、わかりやすく講義する。 教科書：稲本直樹著「反応論による有機化学」（実教出版）
結 晶 化 学	笹 田	III 前	化学結晶学の基礎、回折法による結晶・分子構造決定、物質の三次元構造と物性・反応の関連について概説する。
生 物 物 理 化 学	野 田	III 後	生物界の現象、さらに生命そのものを化学の言葉で理解することに関する学問の現状と将来を考える。
化 学 特 別 講 義 I	前 田	III 前	有機光化学反応の基礎と励起状態分子の性質及び反応について解説する。

理学研究科・化学専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
物理化学演習 I	丸山	I	専門的文献あるいは教科書等の輪読演習
無機化学演習 I	曾根 福田	I	最新の無機化学に関する外国文献の講読
有機化学演習	塩田 前田 永野	I	文献の講読と討論
生物化学特論 I	瀬野	I 前	複合糖質、特にグリコサミノグリカンの構造と機能を中心に。
生物化学演習 II	松本 瀬野	I・II	外国文献の講読と討論
生物化学特論 II	松本	I 前	生体物質間の特異的相互作用について解説する。
構造化学演習 I	細矢	I	
特別研究	丸山 細矢 曾根 福田 塩田 永野 瀬野 松本 中藤 枝田	I・II	

生物学科

科 目	教 官	学 年	内 容
系 統 学	渡辺	I 前	主に無脊椎動物各群の体制、発生、進化などの見地から動物の系統について解説する。
生 理 化 学	清水	I 前	生理化学の基礎について概説する。 教科書：丸山工作「生化学」（裳華房）
植 物 形 態 学	山下	II 前	植物の生殖、発生、生活史、解剖の比較体系
遺 伝 学	石和	II 後	遺伝学全般にわたっての概説。クロー遺伝学概説（木村他訳、培風館）の内容程度の知識が予め修得されていることが望ましい。 参考書：三浦謹一郎ほか訳 遺伝子の分子生物学 上・下（化学同人）
細胞生物学 I	遠山	II 前	細胞小器官の微細構造と機能。 教科書：太田次郎「細胞生物学」（裳華房）
細胞生物学 II	太田	III 前	細胞の構造と機能を、分子生物学を基礎にして概説する。
発 生 学	能村	III 後	動物の発生過程についての概説と発生学が提起するいくつかの基本的問題についての総説。
動物生理学 I	馬場	III 前	
生物学演習	全教官	IV	

科 目	教 官	学 年	内 容
特 別 研 究	能 村 渡 辺 荒 馬 山 塚 清 本 新 水 石 関 太 田 遠 山 芦 原	IV	学生各自個別の主題による専門的研究作業とレポート作製。指導教官が助言役に当たる。生物学的研究法的一端を体得することを目的とする。
系 統 学 実 習	渡 辺	I 前	代表的ないくつかの動物を材料として、広義の解剖実習。 教科書：八鹿寛二「生物顕微鏡の基礎」(培風館)
植 物 形 態 学 実 習	山 下 西 川	II 前	植物形態、解剖の基礎的観察、系統分類についても配慮する。
遺 伝 学 実 習	新 関 石 和 松 浦	II 後	遺伝学の基礎的な実験。
細 胞 生 物 学 実 習	太 田 遠 山	II 後	細胞生物学の基礎実験。
発 生 学 実 習	能 村 豊 島	III 後	発生学の基礎実験。
動 物 生 理 学 実 習	馬 場	III 前	ゾウリムシ、カエルなどを用いた動物生理学の基礎実験。
生 理 化 学 実 習 I	荒 木 塚 本	III 前	生体物質の取扱い及び酵素反応の基礎実験。
生 理 化 学 実 習 II	清 水 芦 原	III 後	生理化学の基礎実験。

※印科目の履修は、講義内容欄の◎を付した科目を修得しておくことが望ましい。

科 目	教 官	学 年	内 容
機 器 取 扱 法	遠 山 芦 原	IV 前	生物学を研究するのに必要な大型機器の原理・構造・応用について講義及び実習をする。
臨 海 実 習 I	渡 辺 豊 島	II 前	動物系統学臨海実習。海産動物の採集および形態、生態の観察、実験を通して動物の多様な生き方を学ぶ。
臨 海 実 習 II	能 村 豊 島	III 後	各種海産脊椎動物を用いた発生学の基礎的実習。
臨 海 実 習 III	馬 場	III・IV 後	各種海産動物を用いた動物生理学の基礎実験。
野 外 実 習	山 下 西 川	II 前	海産植物と陸上植物の分類、形態、分布を現地で観察する。
植 物 生 理 学 I	清 水	II 後 III 前	植物の生合成能を中心とした植物生理学 参考書：清水碩「植物生理学」(裳華房)
植 物 生 理 学 II	塚 本	III 前	植物生理学通論
動 物 生 理 学 II	馬 場	III 後	
植 物 生 理 学 特 別 講 義 II	橋 本	III 前	高等植物の生長発育の生理学。種子発芽根・茎・葉の生長、花芽形成に關与する植物ホルモンおよび光の作用について述べる。
細 胞 遺 伝 学	新 関	III 後	真核生物における遺伝物質のありかた、その動きについて考える。
※ 集 団 遺 伝 学	石 和	III 後	進化遺伝学および集団遺伝学の基本的骨格を解説し、生物の多様性維持機構や進化についての理解を深めることをねらいとする。◎巨視生物学
生 物 学 史	中 村	III 後	生物学の学説の形成過程と科学者の社会とのかかわりあいを中心に講義する。

科 目	教 官	学 年	内 容
動物形態学 特別講義 I	浅 島	Ⅲ 前	脊椎動物の組織や器官の分化、「形」のでき方、再生、変態、ガンなどの問題を形態学および生化学的のいろいろなデータに基づいて講義する。
動物生理学 特別講義 I	荒 木	Ⅲ 後	生理現象における調節の諸問題について
動物生理学 特別講義 II	高 杉	Ⅲ 前	脳下垂体ホルモンの生理作用とこれらのホルモン分泌を支配する視床下部の機能、その他の内分泌器官(甲状腺、副甲状腺、消化管、降臓、生殖腺等)の形態、ホルモン作用およびホルモンの分泌調節について述べる。
細胞生物学 特別講義 I	草 薙	Ⅲ 後	
生物学特別講義 I	外 村	Ⅲ 前	
生物学特別講義 III	芦 原	Ⅲ 後	物質代謝とその調節および生物学的意義について解説する。
生態学 I	有 賀	Ⅲ 前	生態系、物質生産(有機物生産)と生物生産、水界とその生物群集、現存量と一次生産、二次生産および高次生産、物質循環などについて講義する。

理学研究科・生物学専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
動物形態学特論	渡 辺	I・II 後	下等無脊椎動物における細胞分化と形態形成に関する問題を中心にした講義と輪読
動物発生学特論	能 村	I・II 前	
動物生理学特論	馬 場	I・II	細胞運動に関する論文の紹介・輪読。
動物生理化学特論	荒 木	I・II 後	
細胞生物学特論 I	遠 山	I・II 前	葉緑体の微細構造と機能に関する最新の論文の講読及び講義。
同 II	太 田	I・II 後	細胞運動と分化について、粘菌類を中心に論じる。
植物形態学特論	山 下	I・II	
植物生理学特論 I	清 水	I・II 前	光合成に関係する色素の代謝。
同 II	塚 本	I・II 後	
遺伝学特論 I	新 関	I・II	
同 II	石 和	I・II 前	生物の進化に関する遺伝学的研究の現状について。
生物学特論 I			
同 II			
同 III			
同 IV			

科 目	教 官	学 年	内 容
生物学特論 V			
同 VI			
同 VII			
特別同 VIII			
同 IX			
同 X	芦原	I・II 前	Annual Review of Biochemistry など最近の総説の講読。
同 XI			
同 XII			
同 XIII			
同 XIV			
同 XV			
特別研究	能渡 荒馬 遠山 太田 清水 塚新 石和 芦原	I・II	

家 政 学 部

児 童 学 科

科 目	教 官	学 年	内 容
児 童 学 入 門	全教官	I 前	児童における人間の探求。 全教官が担当し、児童学全般を展望する。 児童学の各領域に関する紹介と導入を行う。
児 童 学 演 習 I	黒 田	I	児童学関係文献のゼミ。集団討議による研究。集団活動（集団行為法、心理劇）の体験。
児 童 発 達	浅 見	II 前	精神発達の各論（初期行動・運動機能・学習行動・知的機能・社会性・人格・遊び等）参考書：家政学講座第一巻「改訂児童発達学」（光生館）
児 童 発 達		II 後	
児 童 発 達	水 野	II 後	子どもの正常な心身の発達をスライド、映画、ビデオなどを用いて具体的に解説する。
児 童 社 会	田 口	II 前	諸課題を文化・家族・環境・教育・福祉などの視点から考察する。
児 童 社 会	本 田 黒 田	I 後	児童の生の現象を、それに関係深い外在的要因、とりわけ、集団、社会、文化などを視座として解明しようとする。初年度は、集団と文化の問題に焦点を当てる。
児 童 社 会	見 田	II 後	I. [人間形成の比較社会学] — マーガレット・ミードの仕事を中心に。 II. [人間形成の心理社会学] — エリック・エリクソンの仕事を中心に。
児 童 学 研 究 法	浅 見	I 後	児童学科における諸学習の中で、基礎的に必要な統計法・調査法・基礎的心理学実験法・精神測定法などについて概説する。テキスト：「児童学実験」浅見他（産業図書）

科 学 童 児

科 目	教 官	学 年	内 容
児童学 研究法	水野	Ⅱ 前	子どもの心身の発達、健康維持、障害児の療育などに関する研究法の基本的事項の解説と演習。
児童学 研究法	大塚	Ⅱ 後	ケースワークについて概述し、少年保護事件へのケースワーク的接近の方法を研究する。
児童学 研究法	田口	Ⅱ 後	言語臨床における、調査・測定・検査・面接等を中心とした臨床的研究法。
保育学 演習	本田	Ⅱ	幼稚園の現場で幼児を観察したり、幼児と生活しながら幼児の発達状態をしる。
人 間 学	浅見 本田 小倉 富田 湯沢	I・Ⅱ	講義内容は追って揭示する。
児童学 演習Ⅱ	全教官	Ⅲ	学生がそれぞれ、指導教官の下に小グループを形成し、自主的あるいは教官の提出したテーマを設定して、研究活動を行う。卒業論文の作成のための予備的性格をもつ。
人間関係学	黒田	Ⅲ 前	(1)文献ゼミにより関係学の基礎を学ぶ。 (2)劇活動・心理劇のさまざまな展開を試み、ドラマの世界の魅力・本質を探るとともに、人間関係をめぐる諸課題を探究する。(人間知の行為科学化の模索)
児童臨床学Ⅰ	黒田	Ⅲ 後	人間関係の視点から児童臨床の理論、技法、実践について考究する。集団心理療法、状況療法の諸技法他。

科 目	教 官	学 年	内 容
児童臨床学Ⅱ	水野	Ⅲ	子どもの病気、特に慢性病の子ども(障害児)に関して、医学の立場から健康管理、保育、福祉などの問題を臨床実習を通して総合的に考える。
児童臨床学Ⅲ	田口	Ⅲ	ことばの発達異常、発音の異常、どもりその他の「言語障害」をもつ子どもの問題についての、臨床的な理解のしかたと指導の理論と方法。
比較発達学	浅見	Ⅲ	系統発達および霊長類学的立場より、広く発達の現象をとりあげ、比較考察する。動物研究並びに人類学的研究を包括し、内外の文献演習も加えながら、ヒトの位置づけと特殊性について検証する。
保 育 学		Ⅲ	
児童文化論	本田	Ⅲ	文化論的視座からの児童への接近。児童に関係の深い様々な文化事象をテキストとして、解説を試みる。
青少年問題	大塚	Ⅲ	青少年非行の動向を展望し、その要因を素質・環境の両面等にわたって検討し、併せてその対策におよぶ。
青少年・児童法制論	森田	Ⅲ 後	少年保護手続に見られる「教育」の観念を中心にして、少年保護法制の歴史的検討を行う。 参考書：守屋克彦「少年の非行と教育」(勁草書房)
教育法制論	森田	Ⅲ 前	「日本近代化と教育」の観点から、我国の教育法制史を概観する。 参考書：R・ドーア「江戸時代の教育」(岩波書店)、H・パッシン「日本近代化と教育」(サイマル出版会)

科 目	教 官	学 年	内 容
児 童 福 祉	川 田	Ⅱ・Ⅲ 前	(近代児童福祉制度発達史) 19世紀から20世紀初頭に至る英国の児童福祉制度の発達過程を、主として児童観・親権観の変遷と関連させながらたどる。教科書は使用しない。
児 童 福 祉	二 宮	Ⅱ・Ⅲ 後	(近代児童福祉制度発達史) 近代日本における児童福祉制度の展開を概観し、＜子どもの権利＞について考察する。教科書・参考書は開講時に指示する。
保 育 特 別 実 習	本 田	Ⅲ・Ⅳ	付属幼稚園の観察研究、その他幼稚園の実習の機会を設け、指導する。
児 童 音 楽	加 勢	Ⅲ	理論と実技両面から、児童と音楽と指導法の接点を探究し、児童の発達を音楽で援助する法を体験する。音楽あそび、鍵盤楽器による音空間の拡大・整理。 テキスト：「ピアノの学校Ⅰ」(音楽之友社)、Kodaly Choral Method.
児 童 造 形		Ⅱ	
保 育 技 術	堀 合	Ⅲ	幼児の教育をするに必要な体の動きを幼児の教材を通して実践する。また、体の動きと、ともなうものとして表現力も時間のゆるすかぎり養う。
脳 神 経 生 理 学		集 中	
小 児 栄 養 学		集 中	
身 体 養 護 論		集 中	

科 目	教 官	学 年	内 容
臨 床 基 礎 実 習	武 藤	Ⅲ・Ⅳ	療育相談施設における臨床実習。 (1)子どもの発達とその「障害」に関する臨床心理学的理解。(2)心理療法の理論と技法。(3)「障害児」保育、地域福祉の実践など。
臨 床 基 礎 実 習	吉 川	Ⅲ・Ⅳ	要助児保育の実践を通して、共に育ちあう関係発展の集団指導(集団心理療法)の基本的な考え方、方法等を把握し、望ましい統合保育のあり方を探っていく。 参考書：「幼児の集団指導」(日本肢体不自由児協会)
臨 床 基 礎 実 習	森	Ⅲ・Ⅳ	児童臨床教育相談に必要な基本的考え方の修得、および実践への基礎的態度の養成を目的とする。児童臨床研究会での研究即実践活動の実習。
臨 床 基 礎 実 習	黒 田	Ⅲ・Ⅳ	児童集団研究会、乳幼児集団研究会における集団指導の実習。個も集団ものびる状況、リーダーチーム、おもちゃ遊び、親子のかかわり、子・母との心理劇、絵本劇場、伝承遊び他の実践研究を行う。
臨 床 基 礎 実 習	中 田	Ⅲ・Ⅳ	言語障害研究室に於て臨床実習を行う。言語臨床家としての基礎的修練を積みながら、相談に訪れる子どもの抱えている現実的問題についての臨床的な理解と解決の方法の究明を目的とする。 ◎児童臨床学Ⅲ
臨 床 基 礎 実 習	松 沢	Ⅲ・Ⅳ	知恵遅れの子どもの通園施設である愛育養護学校・家庭指導グループにて実習をする。
児 童 学 特 殊 講 義	秋 山	Ⅲ	

家政学研究科・児童学専攻

科 目	教 官	学 年	学 内 容
児童学特殊講義	大 戸	Ⅲ	変化する時代の保育を求めて。 子どもたちと親の要求を共に実現する保育のあり方を探究。 教科書：Hughes, et al. Nurseries Now: A fair deal for parents and Children Penguin Books, 1980.
保育学特論	本 田	Ⅳ	育児の歴史と現代日本の保育のありかたを探究し、子どもたちの権利について考察する。教科書：多野重雄「保育の歴史と現代」(会誌『保育』)
児童文化特論	本 田	Ⅳ	近代以前の児童文化史 瀬田貞二著「落穂ひろい」をテキストとする。
関係学特論	黒 田	Ⅳ	人間科学における関係学の位置づけ。関係学の理論、技法、実践を、行為法、主として心理劇によって研究する。文献「関係学研究」
言語治療特論	田 口	Ⅳ	言語の発達・発達異常・障害に関する文献等を資料に、この分野の課題と研究方法を論ずる。
青少年問題特論	大 塚	Ⅳ	最近の青少年非行のうち、特に現代非行の特色を示すもの(家庭内暴力、学校内暴力、薬物濫用、性的非行等)を研究する。
教育法制特論	森 田	Ⅳ	ドイツ語基礎文献講読(教材は開講日に提示の予定)
発達神経学特論	水 野	Ⅳ	子どもの行動の発達を神経心理学的観点から概説し、関連文献の講読と討論を行う。
人間関係学特論	黒 田	Ⅳ	人間関係、児童臨床、心理劇と関連のある文献を講読し、研究の動向を把握するとともに、具体的な実践研究の基盤となる理論、方法論について考究する。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
児童発達学特論	浅 見	Ⅰ	発達に関する諸問題を広く内外の文献を用い、実験的並びに理論的研究についての知見を深め、発達に対する考え方を原点に立って再考することを目的とし、ゼミナールの形式をとる。
保育学特論		Ⅰ	
児童文化特論	本 田	Ⅰ	近代以前の児童文化史 瀬田貞二著「落穂ひろい」をテキストとする。
関係学特論	黒 田	Ⅰ	人間科学における関係学の位置づけ。関係学の理論、技法、実践を、行為法、主として心理劇によって研究する。文献「関係学研究」
言語治療特論	田 口	Ⅰ	言語の発達・発達異常・障害に関する文献等を資料に、この分野の課題と研究方法を論ずる。
青少年問題特論	大 塚	Ⅰ	最近の青少年非行のうち、特に現代非行の特色を示すもの(家庭内暴力、学校内暴力、薬物濫用、性的非行等)を研究する。
教育法制特論	森 田	Ⅰ	ドイツ語基礎文献講読(教材は開講日に提示の予定)
発達神経学特論	水 野	Ⅰ	子どもの行動の発達を神経心理学的観点から概説し、関連文献の講読と討論を行う。
人間関係学特論	黒 田	Ⅰ	人間関係、児童臨床、心理劇と関連のある文献を講読し、研究の動向を把握するとともに、具体的な実践研究の基盤となる理論、方法論について考究する。

食物学科

科目	教官	学年	内容
栄養学	倉田	Ⅲ 後	五大栄養素について解説し、さらにそれらの栄養における相互関係、人間栄養に関する諸問題などについて述べる。
栄養生化学	荒川	Ⅲ 前	糖質、脂質、蛋白質、核酸等の代謝およびその調節、生化学的意義について講述。
栄養生理学	小池	Ⅲ 前	栄養素の摂取、利用及び代謝産物の排泄などについて、関係する臓器の働きを中心に述べる。 教科書：小池五郎「栄養生理学入門」(女子栄養大出版部) および講義資料。
食品化学	小林	Ⅱ 後	食品の色、味、香りに関与する諸成分につき、その生成、存在、機能につき有機化学的見地から解説する。
食品有機化学	久保田	Ⅱ 前	食物学の基礎としての有機化学。含窒素含硫化合物の有機化学および有機化合物の立体構造を中心とした講義。
食品工学	本間	Ⅲ 前	主要な農産加工品について、その成分の食品的特性、および加工貯蔵にともなう理化学的変化について述べる。
食品加工貯蔵学	相田	Ⅲ 後	食品の貯蔵法に関する基礎的、原理的事項について述べ、具体的貯蔵法、レトルト食品、食品と包装について述べる。若干の食品の加工法についても述べる。
調理学 I	畑江	Ⅱ 後	調理過程における諸現象を、調理の手法との関連において講義する。 テキスト：松元文子他共著「調理学」(光生館)
調理学 II	島田	Ⅲ 前	調理過程における諸現象を、食品の調理性との関連において講義する。 テキスト：松元文子他共著「調理学」(光生館)

科目	教官	学年	内容
生物化学	五十嵐	Ⅱ 後	食物学の基礎としての立場より、生体成分(炭水化物、脂質、タンパク質、核酸など)の化学構造と機能を中心として解説する。
食品分析化学	戸田	Ⅱ 後	栄養的見地から食品の標準成分を測定する分析方法について、主要な方法を選択して説明する。
食品物性論	中浜	Ⅲ 前	食品の力学的性質、熱学的性質、光学的性質などについて解説する。
食品衛生学	福場	Ⅲ 後	食中毒に関する諸問題及び食品添加物問題等、食品衛生全般に関し基本的な事項を解説する。
栄養学実験	荒川 倉田	Ⅲ 前	各種ビタミンの抽出、化学的定量、動物実験および、主要酵素の分離、測定。
食品学実験	小林 久保田	Ⅲ 前	食品成分の分離、定性、定量及び簡単な有機合成。
貯蔵学実験	相田 本間	Ⅲ 前	タンパク質のアミノ酸を定量することを目的とする。(1)アミノ酸のニンヒドリン比色。(2)イオン交換クロマトグラフィー。(3)タンパク質の加水分解。(4)アミノ酸の薄層クロマトグラフィー。
調理学実験	島田 畑江	Ⅲ 後	調理に関する基礎的実験を行う。松元文子、吉松藤子共著「三訂調理実験」
基礎化学実験	倉田 本間 久保田	Ⅱ 後	定性および定量実験を通じて、基本的な化学実験の手法を学ぶ。
調理学実習 I	畑江	Ⅱ 前	調理の手法および食品の取り扱い方の要点を基礎的調理の実習を通じて習得する。

科 目	教 官	学 年	内 容
調理学実習Ⅰ	松本	Ⅲ	主として日本料理および中国料理を実習し、食品の扱い方、献立構成、食卓作法などについての説明を行う。
特殊栄養学	小池	Ⅲ 後	人体の構造、ホルモンの働き、ホメオスタシス、ストレス、神経系の働き、疲労、睡眠、などの生理と栄養、疾病との関係、成長、妊娠、授乳、筋肉運動などの生理と栄養の概況。 教科書：小池五郎著「栄養生理学入門」(女子栄養大出版部)
食品微生物学	相田	Ⅲ 前	食品の加工、貯蔵に關する微生物を中心に応用微生物学的事項についても若干ふれる。微生物の栄養、増殖、生理、微生物酵素と食品、微生物代謝と食品、醸造。
食品物理化学	古賀	Ⅲ 後	食品素材の特性やその保存・調理過程を念頭におきながら、物理化学の初歩的な解説を行う。
調理器具論	平野	Ⅱ 前	調理器具を構成する各種材料の特性を概説し、加熱調理器具および機械的調理器具について、構造、性能、使用法について説明する。
調理学実習Ⅱ	寺元	Ⅲ 後 Ⅳ 前	主として欧風料理及び中国料理一般の講義、実習並びに献立構成及び食卓作法。
食事計画論	浜島 東畑	Ⅲ 前	日常食献立に關する講義と献立作成の演習。テキスト：松元文子他著「食事計画論」(建帛社)
食糧政策	宮崎	Ⅱ 後	わが国の食糧の生産、輸入、流通、消費を通しての問題について論述し、人口との関連、安全保障、食生活のあり方についても触れる。

科 目	教 官	学 年	内 容
食物史	石川	Ⅱ 前	主として日本、その中でも近世より近代にかけての社会変動期において、食品材料・加工・調味・調理・食事等の各分野に及ぶ食生活の全体構造でどのような変動が生じたかについて検討する。
食物研究法	山口	Ⅲ 後	官能検査一人間の感覚を用いて味、香り、テクスチャー、嗜好などを数量化する方法—について概説する。実習、演習も行う。テキスト：その都度配布する。
食物学特殊講義	小林	Ⅱ 後	
食物学演習	全教官	Ⅳ	外国で発表された近着研究論文の解説と討論。
栄養学輪講	荒川 倉田	Ⅳ	栄養学に關する外国書、文献の輪読。
食品学輪講	小林 久保田	Ⅳ	食品学に關する外国書、文献の輪読。
食品貯蔵学輪講	相田 本間	Ⅳ	食品貯蔵学に關連する外国書 Inside Chemistry C. Compton 著 など、総説を輪読する。
調理学輪講	島田 畑江	Ⅳ	調理学に關する外国書、文献の輪読。
食物学輪講	福場 五十嵐	Ⅳ	食物学に關連する外国書、総説を輪読する。
応用統計学	横山	Ⅲ 前	1元配置法、回帰分析、2元配置法、直交多項式などの応用統計学の基礎を、できるだけ、家政学關係の例題で解説する。

家政学研究科・食物学専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
応用統計学演習	横山	Ⅲ 後	計量値でないさまざまなデータの解析法を商品テスト、官能検査データなどを通じて解説する。また、簡単な直交表を使った実験計画についても学び、実際に応用する。

科 目	教 官	学 年	内 容
栄養化学特論Ⅰ	荒川	I 前 II 前	栄養化学に関する基礎的諸問題、および代謝調節について解説する。
栄養化学特論Ⅱ	倉田	I	基礎栄養化学の立場から、酵素反応における諸問題（たとえば、活性中心構造と作用機構など）について解説する。
栄養生理学特論			本年度開講せず。
特殊栄養学特論		II 前	
食品化学特論Ⅰ	小林	I	食品成分の化学的研究方法について。特に化合物の構造解析に用いられる機器分析法について、最近の成果を中心に解説する。
食品化学特論Ⅱ	久保田	I 前 II 前	食品の品質に関する最近の研究を中心とする講義。
食品微生物学特論		II 後	
食品貯蔵学特論Ⅰ	相田	I	食品の貯蔵、加工に関する最近の進歩についてトピック的な問題について述べる。
食品貯蔵学特論Ⅱ	本間	I	食品における水分について、脂肪の酸化、蛋白質の分解、褐変への影響をのべる。アミノ酸の分析方法についても説明する。
食品衛生学特論	福場	I 後	新しい食品添加物毒性判定法等を中心として食品衛生学の新しい研究を説明する。
食品物性特論			本年度開講せず。
調理学特論Ⅰ	島田	I 後	調理過程の諸現象のうち特に物性変化と官能との関連について解説および演習を行う。

科 目	教 官	学 年	内 容
調理学特論Ⅱ	畑 江	Ⅱ 前	調理過程の諸現象のうち特に加熱に関する変化を中心に解説および演習を行う。
生物化学特論	五十嵐	Ⅰ	脂溶性ビタミンを中心として生体調節因子の機能について解説する。
環境生化学特論	大 橋	Ⅰ 後 Ⅱ 後	外部環境に対する生体内受容機構について味覚を中心に概説する。

科 目	教 官	学 年	内 容
被服材料・ 機構学概論	松川 中島	Ⅰ 前	被服材料の種類、構成および性質。繊維の分類、製造および性質。被服の着心地、熱や水分の伝達機構など。 教科書：松川「新版 被服材料」（家政教育社） 参考書：松川他「被服材料学その他」（光生館）
染色・整理学概論	駒 城	Ⅰ 後	染色化学と被服整理学の概要。専門のための予備学習ならびに、教職のための基本的知識の整理を目的とする。教科書：矢部・林共著「家政学講座第10巻 被服整理学・染色化学」（光生館）
被服構成学Ⅰ	長谷部	Ⅰ 後	人体の形態および衣服の構造について。
被服構成学Ⅱ	石 川	Ⅱ 後	被服構成における布地の接合、その強さ、縫いつれ、衣服のゆとり、形くずれ、衣服圧など。
服飾美学概論	板 倉	Ⅰ 前	美学概論及び服飾美学の方法論。 参考書：板倉著「服飾美学」（弘学出版）
	小池三	Ⅰ 後	服飾の意味、服飾の形・色・文様の訴えるもの、および流行の諸相についてのべる。
被服材料学	松 川	Ⅱ 前	繊維各論。繊維の構造と諸性質。被服材料の加工。プラスチック、皮革、人工皮革、毛皮、ゴムも含め新しい被服材料の開発。 教科書：松川「新版 被服材料」 参考書：小川「応用被服材料学」（光生館）
被服整理学Ⅰ	駒 城	Ⅱ 前	繊維製品の洗浄に関する諸問題。漂白・蛍光増白・仕上げ等の概要。教科書：矢部・林共著「被服整理学概説」（光生館）

科 目	教 官	学 年	内 容
被 服 材 料 ・ 機 構 学 実 験	松 川	Ⅱ 前	糸、布の構成。繊維の諸方法による定性。 顕微鏡。織物の通気、保温、吸水、防し わ、剛軟、ドレープ、引張り特性、摩耗 など。教科書：松川「被服材料実験」 (家政教育社)
染色・整理学実験	駒 城	Ⅱ 後	水の硬度測定(セッケン法)、洗剤溶液の 特性、洗たく機の洗浄力比較、螢光増白、 漂白、染料の部属鑑別、直接および酸性 染料による染色実験、ろうけつ染め。
被 服 構 成 学 実 験 実 習 I	長谷部	Ⅱ	衣服地の接合、その強さ、縫いつれ、衣 服地の曲面化など被服構成に関する基礎 的実験を行う。
被 服 構 成 学 実 験 実 習 II	石 川	Ⅲ	体型の観察並びに衣服原型に関する実験
西洋服飾史概説 I	板 倉	Ⅱ 前	古代より中世に至る西洋服飾の流れ。
西洋服飾史概説 II	板 倉	Ⅱ 後	近世より今日に至る西洋服飾の流れ。
応 用 統 計 学	横 山	Ⅲ 前	1元配置法、回帰分析、2元配置法、直 交多項式などの応用統計学の基礎を、で きるだけ、家政学関係の例題で解説する。
応用統計学演習	横 山	Ⅲ 後	計量値でないさまざまなデータの解析法 を商品テスト、官能検査データなどを通 じて解説する。また、簡単な直交表を 使った実験計画についても学び、実際に 応用する。
被服学特殊講義	飛 田	Ⅳ 前	実験データを処理する際の数値計算法と モデル化、シュミレーションなどについ て概説する。

科 目	教 官	学 年	内 容
被 服 機 構 学	松 川	Ⅱ 後	人間—被服—環境の系において、被服の 各種の機能を快適さとの関連で検討。 教科書：松川他「被服材料学・機構学・ 衛生学」(光生館) 参考書：松川他訳 「フォート他 被服機構学」(光生館)
被 服 衛 生 学	吉 田	Ⅱ 前	人間—被服—環境系の相互の関連を人体 生理学の立場で考察し、衣服の健康に及 ぼす影響についても論及する。 参考書：永田久紀著「衣服衛生学」(南 江堂)
織 維 物 理 学	中 村	Ⅲ 前	(1)高分子の分子量と分子量分布、(2)分子 構造と分子運動、(3)希薄溶液、(4)固体構 造、(5)力学的性質、(6)熱的性質。 教科書：岡村誠三等「高分子化学序論 (第2版)」(化学同人)
織 維 化 学 I	中 島	Ⅲ 前	高分子の有機化学(高分子生成反応の基 礎・速度論・逐次重合・連鎖重合・高分 子の官能基の変換・触媒作用・高分子の 分解・高分子間複合体の形成)
織 維 化 学 II	中 島	Ⅲ 後	繊維各論と化学加工(綿・レーヨン・酢 酸セルロース・ビニロン・絹・羊毛・ポ リアミド・アクリル・ポリエステル・ポ リオレフィン・スパンデックス・ガラス)
被 服 整 理 学 II		Ⅲ 前	
染 色 化 学	駒 城	Ⅱ 後	染料の部属分類と各特性、染色物の色、 堅ろう度、染色の基礎理論、各種繊維の 染色性。教科書：矢部・林共著「染色概 説」(光生館)
応 用 物 理 化 学		Ⅲ 後	
基 礎 化 学 実 験	松 浦	Ⅱ	分析化学・物理化学の基礎的な実験。 プリント配布。

科 目	教 官	学 年	内 容
被服材料学実験 I	中 島	III 前	高分子化学基礎実験(重合・重縮合・高分子反応・分子量測定・熱的性質・赤外吸収スペクトル・ガスクロマトグラフィー・官能基の定量・元素分析)
被服材料学実験 II	中 島	III 後	繊維化学基礎実験(結晶化度・粘弾性・吸着等温曲線・拡散係数・その他)
被服機構学実験	松 川	III 前	布地の透湿, 乾燥, 引張り弾性, 圧縮, 摩擦帯電。顕微鏡写真。熱的性質。着衣時の皮膚温, 衣服圧, 衣服気候, 衣服の熱絶縁値など。 教科書: 松川「被服材料実験」(家政教育社)
染色化学実験 I	駒 城	III 前	モノアゾ染料の合成, 精製, 混合染料水溶液の分光吸収曲線, 各種染料の染色性・堅ろう度(カチオン染料・建染め染料・分散染料・反応染料)
染色化学実験 II		III 後	
被服整理学実験		III 前	
被服科学演習 I・III	中 島	III 前 IV 前	N. R. S. Hollies, R. F. Goldman 編 "Clothing Comfort—Interaction of Thermal Ventilation, Construction and Assessment Factors" の講読
被服科学演習 II・IV	松 川	III 後 IV 後	Billmeyer 「Textbook of Polymer Science」, Fourt, Hollies 「Clothing」, Hollies, Goldman 「Clothing Comfort」 などからコピーにより輪読。外国雑誌の報文の概説。
被服科学演習 V・VII	駒 城	III 後 IV 後	K. Durham; "Surface Activity and Detergency" の講読。

科 目	教 官	学 年	内 容
被服科学演習 VI・VII		III 前 IV 前	
被服科学輪講	中 島 松 川 駒 城	IV	近着外国文献の輪読と討論。
被服構成学 実験 実習 III	祖父江	III	被服の平面構成に関する実験実習。
被服構成学特講 I	長谷部	III 後	被服構成学に関する諸問題について考察する。
被服構成学特講 II	保 志	III 前	被服基体としての人体について, 被服学上必要と思われる範囲での構造及び機能について述べる。
被服構成学演習 I	長谷部	II	被服構成学に関する外国書の購読。
被服構成学演習 II	石 川	IV	被服構成学 II の講義に関連した諸問題。
被服構成計画	田 村	III 後	被服の機能性を人体生理学の立場から考察し, 快適な被服設計の要因について解説する。
被服 図 学			本年度開講せず。
服飾意匠実習			本年度開講せず。
日本服飾史概説	小池三	II	古墳時代から近代までの日本服飾に関して, 従来の通説を検討しつつ概観する。
服飾美学演習 I	板 倉	III	美学史関係の資料講読。
服飾美学演習 II	板 倉	IV	美学関係の資料講読。
服飾美学演習 III	小池三	III	日本服飾史に関する文献資料・絵画資料の検討。

家政学研究科・被服学専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
服飾美学演習Ⅳ	小池三	Ⅳ	文学作品中の服飾描写の読み方を検討する。
服飾美学特講	小池三	Ⅳ 前	服飾の語り方について。
	板倉	Ⅳ 後	ヨーロッパ中世の造形と思想とのかかわり。
服飾史特講	菅原	Ⅲ 前	西洋18・19世紀の服飾について講義をする予定。
	成田	Ⅲ 後	「平安朝の服飾」を通じて和様化の現象をとらえ、美意識の問題についても考える。その為に服飾に関する記録類に加え、特に文学作品、絵巻、和鏡等の造形作品も含め、資料について講義する。
美学特講	利光	Ⅲ	現代英米の美学では分析哲学の方法をとるものが多い。そのなかで芸術表現の問題が如何に論究されているか探ってみたい。これは表現の一形式としての「よそおい」の解明にもつながるであろう。

科 目	教 官	学 年	内 容
被服材料学特論 (講義)	松川	Ⅰ・Ⅱ 前	各種機能をもつ被服材料の被服としての適用性。布地におよぼす繊維、糸、組織などの諸性質。関連した文献の説明。
被服材料学特論 (演習)	松川	Ⅰ・Ⅱ 後	外国図書、文献による講読と討論。たとえば Fourt, Hollies 「Clothing」, Hollies, Goldman 「Clothing Comfort」など。
被服物理学特論		Ⅰ 前	
被服材料化学特論	中島	Ⅰ 前 Ⅱ 後	被服の温熱生理学および生体工学の現状に関する講義。
被服衛生学特論	吉田	Ⅰ 前	人間の体温調節作用とくに寒さに対する適応機構について、テキストを輪講し、ディスカッションを行いながら学習する。教科書：伊藤真次著「日本人の耐寒性」(社会保険新報社)
繊維構造論			本年度開講せず。
染色化学特論 (講義)	駒城	Ⅰ 前 Ⅱ 前	染色理論の進歩に対応した題目を選び、特殊講義および討論を行なう。
染色化学特論 (演習)		Ⅰ 後 Ⅱ 後	
被服整理学特論 (講義)		Ⅰ 前 Ⅱ 前	
被服整理学特論 (演習)	駒城	Ⅰ 後 Ⅱ 後	随時近刊の外国図書・文献の講読と、関連事項の討論。
繊維界面化学	角田	Ⅰ 前 Ⅱ 前	繊維のモデル物質としての高分子の表面および界面を例題として、洗浄や染色現象の基礎としての界面化学を概説する。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
被服構成学特論Ⅰ (演習)	石川	I 後 II 後	被服設計に関する基礎的諸問題。
被服構成学特論Ⅰ (実験実習)	石川	I 前 II 前	被服設計に関する基礎的諸問題について 実験的考察を行う。
被服構成学特論Ⅱ (講義)	長谷部	I 前 II 前	被服設計に関する諸問題。
被服構成学特論Ⅲ	酒井	I 前 II 前	
被服構成学特論Ⅳ	上田	I 後 II 後	立体計測法の基礎理論を紹介し、その応 用として人体計測等について述べる。
服飾美学特論Ⅰ (講義)	板倉	I	ヨーロッパ中世の造形と思想とのかわり。
服飾美学特論Ⅰ (演習)	板倉	I	ヨーロッパ中世の資料講読。
服飾美学特論Ⅱ (講義)	小池三	I	異装について。
服飾史特論Ⅰ	細井	I 後	演劇における視覚的なものの位置を多 方面から照明してみよう。
服飾史特論Ⅱ	増渕	I 前	人間と人形。その美学芸術学特殊講義。 人間の正統的あるいは異端的なアイコンで ある人形の側面から、人間の存在、情念、 文化について哲学的に考察する。 参考書：増渕著「人形と情念」(勁草書 房)
芸術学特論	杉野	I	服飾に関係のふかい芸術学上のテーマを いくつかとりあげ、講義・討論を通して しだいに服飾の本質にせまりたい。

科 目	教 官	学 年	学 内 容
被服学特別講義	飛田	I 前 II 前	実験データを処理する際の数値計算法と モデル化、シュミレーションなどについ て概説する。
被服学輪講	中島 松川 駒城		近着外国文献の輪読と討論。
被服学輪講	石川 長谷部	I 前 II 前	被服設計に関する外国文献の輪読。

家庭経営学科

科 目	教 官	学 年	内 容
家政学原論Ⅰ	富田	I 前	学問論, 人間論, 生活論の3部門について, それぞれ本質, 変異, 由来の3つの側面について論ずる。
家政学原論Ⅱ	小倉	Ⅲ 前 Ⅳ 前	ギリシア以来の西洋家政学史に即して, 家政学の基本概念を講義する。 教科書: 小倉編「倫理学概論」(以文社)
家庭生活論	小倉	Ⅲ 後	家政学原論の基本概念を考慮しつつ西洋の文芸作品や代表的な思想家の家庭生活論を講述する。 参考書: 小倉編「倫理学概論」(以文社)
家庭経済学概論	犬塚	I 前	家庭経済学に関する基礎的諸概念の理解を中心とする。
家庭経済学概論	安井	I 後	マクロ経済学の基礎理論についてやさしく講義する。なお時間があればスタグフレーションなど現実の経済問題についても考察する。
家庭経済学Ⅰ	伊藤	Ⅱ	家庭経済について, 統計資料に基づく分析と理論的解明。テキスト: 「改訂家庭経済学」(伊藤秋子著・光生館)
家族関係学概論	袖井	Ⅱ 前	家族関係を理解するうえで必要な概念, 現論および現代日本の家族関係の特色について講義する。テキスト: 「テキストブック社会学(2)家族」(有斐閣)
家族社会学Ⅰ	袖井	I 後	家族社会学を学ぶうえで必要な社会的概念, 研究方法および家族をとりまく現代社会の状況について講義する。 テキスト: 「社会学入門」(有斐閣新書)
家族社会学Ⅱ	湯沢	Ⅱ 後	周期論および夫婦・親子・兄弟・親族等の内部構造の社会的考察。 テキストは開講後に指示する。

科 目	教 官	学 年	内 容
家庭法律学Ⅰ	湯沢	Ⅲ 前	家族を律する民法第4・5編の成立, 婚姻・離婚・親子・扶養の法的構成と裁判例の具体的説明。六法全書必要。
社会統計学Ⅰ	飯尾	Ⅲ 前	統計学の基礎的な技術を概説することを通して, 統計的なものの見方あるいは考え方の習得を目指す。 参考書: 安川正彬著「統計学入門」日本経済新聞社(日経文庫)
人間学	湯沢 小倉 富田 浅見 本	I・II	講義内容は追って掲示する。
家庭経営学演習	富田他 全教官	Ⅲ	「家庭生活」に関する事柄について, 資料収集, 分析, 討論を通して理解し視野を広める。
家政学史	竹内	Ⅲ 後 Ⅳ 後	日本人が「家」なるものを如何に捉え, それに如何に関わってきたか, 主として近代日本の文学者・思想家の場合をとりあげて検討してみたい。
家政思想史	松田	Ⅲ 前 Ⅳ 前	講義の前半では, ルネサンス期の万能の人レオン・バチスタ・アルベルティの「家族論」を中心に, その家族論と古代ギリシア思想との関連, およびドイツの社会学者ゾンバルトの評価も考慮しながら述べる。後半では, ヤスパースの実存主義的考えから, 「愛と理性の関連」をとりあげて家族愛, 特に夫婦愛について考えてみる。
家庭管理学概論	馬場	Ⅲ 後	家庭の経営・管理の原理, 家事労働, 家族の生活時間, 女性の就労などを通して現代の家庭生活を考える。

科 目	教 官	学 年	内 容
家政学原論演習	小倉	IV	カント及びヘーゲルなどの家族論を講読する。中心になるテキストは、Hegel, Grundlinien der Philosophie des Rechts である。
人類学実験実習	富田	III 後	人体の形態と機能の観察と測定，行動の観察と記録をおこない，最も基礎的な技術を身につける。
人間工学 (集中講義)	堀野	II 前	作業の中から不安全と苦痛を取除く事が出発点。人間のミスと事故，疲労，分かりやすい情報表示などを日常生活の場で例示しつつ概説する。 教科書：F・ケラーマン他著 小木沢「人間工学の指針」(日本出版サービス)
家庭経済学Ⅲ	伊藤	III 後	生活水準に関する歴史的考察，概念，指標，測定，指標の総合などについての現論と実際。
家庭経済学演習Ⅰ	伊藤	IV	家庭経済学および経済学全般の内外諸文献の批判的検討および卒論指導を行う。
家庭経済学演習Ⅱ	犬塚	IV	卒論指導を中心とする。
家計簿記	伊藤	III 後	家計簿記の理論と実習。
消費者経済学	犬塚	III 前	都留重人訳「サムエルソン経済学」(岩波書店)，国民生活研究所訳「消費者経済学」(至誠堂)，HEIB研究会編「HEIB—企業・行政・消費者の環—」(光生館)等を参考文献とする。(貸与)
消費者経済学実習	犬塚	III 後	前期「消費者経済学」における，基礎的諸概念の理解および理論的基礎をふまえた上で，実証的分析を行う。

科 目	教 官	学 年	内 容
数理経済学	小川	II 前	複雑な経済現象をどのように整理し，処理し，分析すれば良いのかを計量経済学的及び数理的に解説する。簡単な数理的分析手法の習得を中心的課題とする。
経済史	安澤	II 前	人間の経済行動の原型を採集狩猟社会に求めたあと，食物生産=消費を軸として経済生活の変化を辿ってみたい。 教科書：E・ボズラップ著，安澤秀一・みね訳「農業成長の諸条件」(ミネルヴァ書房刊)
老年学	袖井	III 後	老年学の基礎概念，理論および現代における老人問題について講義する。
家族心理実習	岡堂	III 後	家族関係への臨床心理学的アプローチについて，理論面・実際面あわせて考察する。教科書：岡堂哲雄「心理学的家族関係学」(光生館)
家族関係学演習	湯沢 袖井	IV	家族と社会の関係についての，基礎概念の再検討，具体的問題の調べ方とめ方，内外文献の講読と討論など。
比較家族研究	原	III 前	本年度は家族の概念を比較文化的に考察する。テキストは授業時間に紹介する。
社会福祉学	中田	II 前 III 前	社会福祉のあゆみ，制度，用いられる方法などを概説した後，社会福祉の新しい方向と，それを可能にする市民参加の問題に触れる。教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。
家庭法律学Ⅱ	湯沢	III 後	家庭法律学Ⅰに引き続いて，親権・後見・相続・家事裁判制度論を，実例を多用しながら法社会的に考察する。演習形態をとる。

家政学研究科・家庭経営学専攻

科 目	教 官	学 年	内 容
調査実習Ⅰ	湯 沢	Ⅲ 前	老人の生活史を中心テーマとする合宿調査を、7月中旬に漁村で実施する。
応用統計学	横 山	Ⅲ 前	1元配置法、回帰分析、2元配置法、直交多項式などの応用統計学の基礎を、できるだけ、家政学関係の例題で解説する。
応用統計学演習	横 山	Ⅲ 後	計量値でないさまざまなデータの解析法を商品テスト、官能検査データなどを通じて解説する。また、簡単な直交表を使った実験計画についても学び、実際に応用する。

科 目	教 官	学 年	内 容
消費者行動論	原 田	Ⅰ 後	
比較家族研究特論Ⅰ	老 川	Ⅰ 前	家族の比較研究を試みている実例について検討する。取り上げる領域は、たとえば家族の内部構造や親族関係である。教材と参考文献は、開講の時に指示する。
比較家族研究特論Ⅱ	袖 井	Ⅰ 前	性役割に関する内外の文献を読み、性役割の国際比較を試みる。
家政学原論特論	小 倉	Ⅰ	西洋現代の代表的な家政思想をテキストにして講読する。 H. Arendt, The Human Condition. O. Brunner, Das „ganze Haus“ und die alteuropäische „Ökonomik“
家庭管理学特論Ⅰ	富 田	Ⅰ 後	
家庭経済学特論Ⅱ	伊 藤	Ⅰ 前	家庭経済学に関する文献の講読。
経営経済学特論	犬 塚	Ⅰ・Ⅱ	未 定
家庭法律学特論	湯 沢	Ⅰ 前 Ⅱ 前	最近における各国の親子法とその現実とを比較検討する。
家庭経営学特別講義	原	Ⅰ・Ⅱ	家族研究に関する社会学・心現学・家政学・文化人類学などの諸学問の動向の中で受講者自身の研究テーマがどのように位置づくのかを、ドイツ・アメリカ・日本などの研究事例から考えていく。

家政学部共通科目

科目	教官	学年	内容
家政学原論	富田	I 前	家政学の根本原理を学問論、人間論、生活論の3つの柱の観点から講義する。
児童学概論	全教官	I 前	児童における人間の探求。 全教官が担当し、児童学全般を展望する。 児童学の各領域に関する紹介と導入を行う。
食物学概論	荒川 島田 本間 久保田	I 後	栄養学、食品学、調理学、貯蔵学の四本の柱の関連において概説する。
被服学概論	被服学 科 全教官	I 前	被服材料学、染色・整理学、被服構成学、服飾美学などの概要を述べ、被服学を展望する。
住居学概論	小川	III 前	住生活の基本的条件をふまえて生活の拠点である住居について、生活機能、空間機能、構成機能の諸側面から論じる。 教科書：武田満す「住居学」(理工学社)
家庭看護学	山口		家庭看護学の基礎を救急法等の実技をまじえて講義する。プリント使用。
家庭機械及び家庭電気	曾我部	II 以上	中学校技術、家庭科教員免許に必要な家庭機械および家庭電気について、実習を中心にすすめる。
調理実習	浜島	II (児童)	手法別、食品別系統による基本調理及び調理実験。
調理実習	浜島	II 前 (被服)	手法別、食品別系統による基本調理及び調理実験。
調理実習	浜島	II (家経)	手法別、食品別系統による基本調理及び調理実験。

科目	教官	学年	内容
被服構成実習	岡田	II (児童)	被服構成に関する基礎的事項並びに基礎的技術の実習。 教科書：柳沢澄子編著「被服構成学実験」(産業図書)
被服構成実習	林	II 前 (食物)	被服構成に関する基礎的事項並びに基礎的技術の実習。
被服構成実習	古松	II (家経)	被服構成に関する基礎的事項並びに基礎的技術の実習。

専任教官名簿

学長 本 藤 卷 正 生

文教育学部

学部長(併教授) 藤 永 保

哲学科

教授 尾 田 幸 雄

” 坂 本 満

” 高 木 きよ子

” 熊 谷 直 男

助教授 宮 島 喬 二

” 土 屋 賢 二

” 高 島 元 洋

講 師 江 原 由美子

史学科

教 授 青 木 和 夫

” 大 口 勇次郎

” 平 野 孝

” 佐 伯 有 一

助教授 五 味 文 彦

” 山 本 秀 行

講 師 岸 本 美 緒

助 手 大 野 美穂子

地理学科

教 授 小 浅 海 重 夫

” 式 正 英

” 井 内 昇 夫

助教授 小 内 藤 博 夫

助 教授 三 上 岳 彦

講 師 栗 原 尚 子

助 手 村 松 晶 子

国文学科

教 授 堤 精 二

” 市 川 孝

” 犬 養 廉

” 浅 井 清

” 三 木 紀 人

助 教授 白 藤 禮 幸

” 平 野 由紀子

助 手 佐 野 裕 子

外国文学科

中国文学・中国語学

教 授 頼 惟 勤

” 近 藤 光 男

” 中 山 時 子

” 佐 藤 保 波

外国人教師 黎

英文学・英語学

教 授 木 原 研 三

” 外 山 滋比古

” 野 島 秀 勝

” 酒 本 雅 之

” 池 田 摩耶子

助 授 宮 川 幸 久
 " 海老根 静 江
 " 富 山 太佳夫
 講 師 西 尾 道 子
 " 寺 津 典 子
 外国人教師 J. C. ルイス
 助 手 田 辺 雅 子
 独文学・独語学
 教 授 杉 本 正 哉
 助 授 石 丸 昭 二
 仏文学・仏語学
 教 授 中 川 信
 " 木 石 川 宏
 助 授 中 村 弓 子
 外国人教師 シェンタル滝野
 教育学科
 教 授 河 野 重 男
 " 藤 永 保
 " 森 隆 夫
 " 中 内 敏 夫
 " 山 中 春 日 喬
 " 小 川 剛
 助 授 上 野 浩 道
 " 須 賀 哲 夫
 " 木 内 田 伸 子
 " 山 宮 原 修
 講 師 鷹 野 光 行
 " 木 内 藤 俊 史
 助 手 熊 谷 真 弓

舞踊教育学科
 舞踊教育学
 教 授 松 本 千代栄
 " 森 下 はるみ
 " 加 賀 秀 夫
 助 授 興 水 はる海
 " 片 岡 康 子
 " 石 黒 節 子
 助 手 大 澤 慶 子
 音楽教育学科
 教 授 大 宮 誠
 " 德 丸 吉 彦
 助 授 遠 藤 秀 一 郎
 講 師 林 広 子
 理学部
 学部長(併) 木 太 田 次 郎
 数 学 科
 教 授 伊 関 兼 四 郎
 " 立 花 俊 一
 " 林 田 侃
 " 本 山 松 田 千 鶴 子
 " 沢 島 侑 子
 " 高 村 幸 男
 助 授 竹 内 順 治
 " 小 川 洋 輔
 " 藤 原 正 彦
 " 内 渡 辺 ヒサ子
 " 小 山 敏 子

助 手 前 田 ミチエ
 " 竹 尾 富 貴 子
 " 榎 本 陽 子
 物理学科
 教 授 石 黒 英 一
 " 橋 爪 夏 樹
 " 田 中 翠
 " 伊 藤 厚 子
 " 伊 藤 敬 子
 " 福 田 博
 助 授 柴 田 文 明
 " 池 田 宏 信
 " 富 永 靖 徳
 講 師 亀 井 理 子
 助 手 大 島 裕 子
 " 森 本 せ つ
 " 佐 藤 浩 史
 " 鈴 木 正 継 二
 " 窪 田 健 二
 化学科
 教 授 中 西 正 城
 " 塩 田 三 千 夫
 " 曾 根 興 三
 " 瀬 野 信 子
 " 丸 山 有 成
 助 授 細 矢 治 夫
 " 松 本 勲 武
 " 前 田 侯 子
 講 師 永 野 肇

講 師 藤 枝 修 子
 " 福 田 豊
 助 手 石 毛 正 義
 " 堀 佳 也 子
 " 北 垣 温 子
 " 鷹 野 景 子
 生物学科
 教 授 荒 木 忠 雄
 " 太 田 次 郎
 " 塚 本 晃 也
 " 新 関 滋 也
 " 能 村 堆 子
 " 清 水 碩 男
 助 授 石 和 貞 男
 " 遠 山 益 司
 " 山 下 貴 昭 次 子
 講 師 馬 場 洋 子
 " 渡 辺 坦 子
 助 手 芦 原 恵 子
 " 西 川 真 知 子
 " (休職) 谷 口 悦 子
 " 松 浦 陽 子
 " 豊 島 義 広
 " 最 上 伏 崎 子
 環境科学(総合コース)
 教 授 根 本 茂
 附属臨海実験所
 所長(併) 教授 小 能 村 堆 子
 助 手 根 本 心 一

家政学部
 学部長(併教授) 荒川 信彦
 児童学科
 教授 浅見 千鶴子
 “ 田口 恒夫
 “ 大塚 雅彦
 助教授 本田 和子
 “ 水野 悌一
 “ 黒田 淑子
 “ 森田 明
 助手 小山 高正
 食物学科
 教授 荒川 信彦
 “ 小林 彰夫
 “ 相田 浩
 助教授 島田 淳子
 “ 倉田 忠男
 “ 本間 清一
 講師 畑江 敬子
 “ 久保田 紀久枝
 助手 鈴木 恵美子
 被服学科
 教授 松川 哲哉
 “ 中島 利誠
 “ 石川 欣造
 助教授 板倉 寿郎
 “ 長谷部 ヤエ
 “ 小林 三枝
 講師 駒 城素子

助手 菅井 清美
 “ 吉村 博子
 家庭経営学科
 教授 伊藤 秋子
 “ 湯沢 雅彦
 “ 小倉 志祥
 助教授 富田 守子
 “ 袖井 孝子
 講師 犬塚 伝也
 婦人問題(総合コース)
 助教授 原 ひろ子
 大学院人間文化研究科
 (博士課程)
 研究科長(併教授) 河野 重男
 助手 藤崎 真知代
 “ 原 一子
 “ 木村 日下部 直子
 “ 吉見 映子
 “ 鶴飼 光子
 “ 酒中 内田 恵子
 “ 田中 西村 由美子
 “ 西澤 奈津子
 生活環境研究センター
 所長教授 福場 博保
 教授 五十嵐 脩
 助教授 大橋 昌子
 “ 田富 永典
 “ 小

学生部
 部長(併教授) 佐藤 保
 保健管理センター
 所長(併教授) 奥野 剛
 附属図書館
 館長(併教授) 堤 精二
 女性文化資料館
 館長(併教授) 堤 精二
 助手 館 かおる

家政学部
学部長 櫻井 隆
副学部長 川 原 隆
教 授 渡 見 千鶴子
助 教 授 田 口 飯 夫
教 授 大 塚 雅 彦
助 教 授 本 田 裕 子
教 授 木 野 謙 一
助 教 授 黒 田 淑 子
助 教 授 森 岡 一 男
助 教 授 小 山 高 正
食物学科
教 授 菅 川 信 彦
助 教 授 小林 彰 夫
助 教 授 相 田 一 浩
助 教 授 尾 田 洋 子
助 教 授 倉 田 忠 男
助 教 授 本 間 清 一
助 教 授 藤 江 敏 子
助 教 授 久 保 田 紀 久 枝
助 教 授 松 木 恵 美 子
服飾学科
教 授 松 川 賢 三
助 教 授 中 島 和 雄
助 教 授 石 川 敬 彦
助 教 授 松 倉 寿 郎
助 教 授 森 田 幸 次
助 教 授 小 池 三 枝
助 教 授 小 池 美 子

第一号 池 田 清
第二号 池 田 清
家政学部
教 授 秋 山 博 子
助 教 授 菅 原 隆
助 教 授 小 倉 幸 三
助 教 授 高 田 信 子
助 教 授 二 井 一 郎
助 教 授 藤 岡 大 作
加太問題(総合) 資料室(文芸)
加太問題(総合) 資料室(経済)
生活文化研究(総合)
大学院人間文化研究科
(博士課程)
研究科 助 教 授 河 野 重 雄
助 教 授 手 塚 隆 義
助 教 授 小 池 幸 三
助 教 授 小 池 幸 三
助 教 授 古 見 敏 子
助 教 授 藤 岡 大 作
助 教 授 西 田 孝 彦
助 教 授 西 田 孝 彦
生活文化研究(総合)
所長 助 教 授 藤 岡 大 作
助 教 授 藤 岡 大 作
助 教 授 藤 岡 大 作
助 教 授 藤 岡 大 作

